

古事記傳

和書
一〇五二一號

和書門類	一〇五二一號
函號	七九
架冊	六八
冊	四八

內閣文庫	和書
一〇五二一號	函
四八冊	架
一八冊	架

內閣文庫	番號和	10521
冊數	48(10)	
函號	137	1

内一三六八二號



此時存存... 者生生乎而於... 其御頸珠之玉... 長... 志...

教文庫

消印

古事記傳七之卷

神代五之卷

本居宣長謹撰

此時伊邪那岐命大歡喜詔吾

者生生子而於生終得三貴子

即其御頸珠之玉緒母由良邇

取由良迦志而賜天

此音

四字以

取由良迦志而賜天

○古事記傳七

オホミカミニタマヒテノリタマハクナガミコトハタカマノ
照大御神而詔之。汝命者所知

ハララレラセトコトヨサレテタマヒキカレソノミ
高天原矣。事依而賜也。故其御

クビタマノナラミクヲタナノカミトマラス
頸珠名。謂御倉板舉之神。訓板
舉云

多
那
次詔月讀命。汝命者所知夜

クニヲレラセトコトヨサレタマヒキ
之食國矣。事依也。訓食云
袁須
次詔

タケハヤササノヲノミコトニノリタマハクナガミコトハ
建速須佐之男命。汝命者所知

レラセトコトヨサレタマヒキ
海原矣。事依也。

大歡喜。此言記中往々小見ゆ。大歡喜も歡喜なり。大ハ伊多ク

訓法。例ハ万葉七十三丁小。大莫遊あり。又十一卷

も伊多久てふ言ハ。記中伊多久佐夜藝豆見ゆ。

痛乃意めて。即万葉小此字をも数書。又甚字をも訓

如。如此大字。その所依て。伊登も訓法し。其

も意ハ同ドクれ。語乃連。依了。異る。意富。伊

賀御命聞者止勅夫も武内宿祢歌よ大雀命を指奉
て那賀美古やもよめる此等よ依り此祢記中
多し前も云る如く後世の汝や云ハ卑免
祢あれやも上代りの尊む人を母云互故命やも云
あり白禱原宮段小神沼河耳命御兄を指て那泥汝命
やも詔ひ式乃祝詞よ倭六御縣の山口坐神等を指て
も汝命や詔命る文見ゆ○高天原ハ前小出て云る如
く天を指て云ふて此大御神ハ今も目前天津虚空小
仰ぎ見奉る今如此事依り賜る大命の隨常小天
を所知音し四海萬國を御照し坐り次あや著明し

然るを世小ハ此大御神を大和國或ハ近江國或ハ
前國小都坐此や云説の聞ゆる凡て皆つみ
邪説なりま茲此邪説ハ天照大神ハあつ天皇乃大祖
小坐故小其徳を天日小配て日神や申すを何れ実
ハ天日申すハ非史也思ひ又天ハあつ氣のみり
形體なる物なる小此國土乃如く高天原や云るも
ハ皇都乃やある事なり是皆漢籍ハ濁生今日見
物ハ意得る邪見起り是漢籍ハ濁生今日見
事物乃尋常乃理小邪見起り是漢籍ハ濁生今日見
事乃尋常乃理小邪見起り是漢籍ハ濁生今日見
元心乃常理ハ強ク當此動也神代乃奇事やも云
ぞハ強ク當此動也神代乃奇事やも云
あハ強ク當此動也神代乃奇事やも云
あハ強ク當此動也神代乃奇事やも云
世間ながく常夜なる法若既崩坐あバ況隠其後ハ

く照し多きをバ、い、う、り、や、う、云、む、若、又、崩、お、よ、ど、あ、
 此、世、小、ま、ま、り、云、バ、人、代、を、り、て、後、ハ、何、処、
 移、坐、ま、り、や、う、せ、む、又、何、故、其、都、坐、り、國、を、バ、棄、
 ま、り、ま、り、次、は、く、心、得、成、果、大、和、小、れ、近、江、
 我、坐、ま、り、物、を、皇、御、孫、命、も、相、續、其、都、坐、ま、
 今、も、西、邊、乃、國、降、奉、皇、多、ま、ハ、何、の、由、を、
 又、書、紀、一、書、小、天、照、大、神、者、可、以、治、高、天、原、云、素、戔、
 鳴、尊、者、可、以、治、天、下、也、何、も、若、高、天、原、を、此、國、土、
 乃、内、一、國、乃、國、造、任、も、異、如、知、者、天、照、大、
 御、神、一、國、乃、國、造、任、も、異、如、知、者、天、照、大、
 然、乎、此、天、下、也、何、も、異、如、知、者、天、照、大、
 を、立、じ、や、此、天、下、也、何、も、異、如、知、者、天、照、大、
 文、し、已、が、私、乃、漢、意、小、説、曲、む、や、何、の、由、説、
 を、さ、り、な、ハ、奴、事、も、乃、何、も、異、如、知、者、天、照、大、
 づ、る、は、い、や、も、い、や、も、あ、り、ま、り、強、く、の、曲、説、
 ○所知ハ斯良世也訓法ハ斯礼也延多又斯吕志米世
 也訓むも悪くは、此詞乃、此、次、小、委、曲、小

云、信、し、万、葉、二、十、小、天、照、日、女、之、命、天、乎、波、所、知、食、登
 云、く、書、紀、よ、云、く、何、不、生、天、下、之、主、者、牧、於、是、共、生、日、神、

號、大、日、靈、貴、此、子、光、華、明、彩、照、徹、於、六、合、之、内、故、神、喜
 曰、吾、息、雖、多、未、有、若、此、靈、異、之、兒、不、宜、久、留、此、國、自、當、早、

送、于、天、而、授、以、天、上、之、事、是、時、天、地、相、去、未、遠、故、以、天、柱、
 舉、於、天、上、也、天、地、相、去、未、遠、也、天、地、分、成、成、り、い、ま、
 柱、立、田、風、神、御、名、を、天、御、柱、國、御、柱、命、を、申、次、を、合、せ、
 天、地、中、に、云、く、天、御、柱、命、を、申、次、を、合、せ、
 上、傳、小、見、ゆ、う、天、照、大、御、神、ハ、此、御、事、依、の、ま、ふ、く、天、

地、乃、共、無、窮、小、高、天、原、を、所、知、着、て、天、地、乃、表、裏、を、
 ○古事記傳七
 ○七

あく御照し坐すして天下小あゆる萬國此御靈を
蒙らば云々云々あまれば天地乃限の大君主小坐す
て世小無上至尊なり此大御神小坐すまゝける
王先高天原小既く五柱神ハ坐すまゝせやもいお高
天原を所知者申せし申するを天照大御神初ハ君主ハ申し
か然ふを世小天之神中主神或ハ國之常立神あやけ
も君主乃如く説くは古傳小違り然るを又彼
神等の人臣神也申すも非なり君あまればいりて
臣やいはいは多人世乃意を以て天地乃始りも君臣
純分を説くは漢意のむが存なりは又四
海萬國此大御神乃御光を蒙り御靈を蒙るまぐ其
初乃趣をも知らざ此皇國ハ生坐ふまを知らざ
る皇國の次れく尊ぶる神代乃正傳説乃なる故あり
ふハ外國ハ次れく神代乃正傳説乃なる故あり
○賜也ハ右の御頸玉を賜ありかく重て言ハ古言乃

常ぞ○御倉板拳之神ハ御祖神の賜し重き御寶也
して天照大御神の御倉小蔵免その棚乃上安置奉
て崇祭ふもり故乃御名あはは板拳ハ書紀
垂仁卷小天湯河板拳す人姓名ありて其も板拳此
云陀難見見えり板を高く寄拳て物置所小構る故
小如此書るありむ新撰字鏡ハ棚閣也太奈和名抄小
棚閣和名多奈やあり常小此棚字を用ふ万葉小
多那て小言れ借字小此を書置御代ハ小傳坐三種
御頸玉ありや云説あり理ハまゝ然も聞ゆ此
也やも非なり其由ハ傳十五乃二十のひら小見ゆ
三柱御子やりぐ小事依るも中此大御神ハ

高天原を依り賜ふが勝生ふる此みありと。別て此御
頸珠御も賜ふ。又中み勝坐故なり。○夜之食
國より食國ハ。御孫命の所知者その天下を惣云称
みして食ハ。物ヲ食ハ。書紀云々。食ヲ美
を表志物ヤ云。万葉十二小。ヲシ。表志須ヤよみ。食ヲ物
ヤ云。辞ふも。食字を借して書云。ふして物を見も。聞も知
も食も。みか他物ヲ身小受入ふ。意同し。故。見
と聞ヤも知ヤも食ヤも。相通はして云。あや多と。し。
その例ハ。此君の御國を治免有ら坐也。知ヤも食ヤ
次。不見ヤ。國ハ食邑ヤ云。ろヤあり。幾千戸。聞者ヤも申
も。食ヤ。自ラ意乃。あや。聞者ヤも申
はあり。これ君の御國治免有坐ハ。物を見ガ如く。聞ガ

如く。知ガ如く。食ガ如く。御身小受入也。有免意。何れバ
ヤリ。此次。所知者ヤ。知見ヤ云。こヤ。同意
ある。其由ハ。下十七。抄。小云。又傳四。乃。又万葉五。七
小大王云。企許斯遠。周久尔能云。又十八。十八。小。高
御座安麻能。日繼登須賣。呂伎能。可未能美許登能。伎已
之乎須。久尔能麻保良尔云。又廿。二十。小。伎已之米須。
四方乃久尔云。あの伎已之乎須。も伎已之米須。も。即
知者ヤ云。ヤ。全く同意ある。を以て。知ヤ。聞ヤ。者ヤ。食ヤ
皆通リ。物食ヲ聞食ヤ。り。も。國を治有ら。も。小
あや。云。曉る。法。これ。所。知。ら。ふ。食。國。ヤ
義も自ら明きし。ふ。食。國。ヤ

云ふ例ハ、輕嶋宮段カも見え續紀宣命スあぢふ食國天
下シタ也も四方食國ヨモノフマクニ也も聞キ者食國イコレマスラスクニ也も数多アベクあり万葉小
も多オホかゝる中小十七四丁小須賣スメロ呂位ロギ能乎須久ラスクニ尔ニあぢ
何ナニり美都ミツ都ツ久ク尔ニ也も御食國ミツクニ也も書カて同文字ドウジをあれ也
須國スクニ也ハ別ワケたり又此表須國スクニ也も御費物ミツモノを献ヲる國クニを云イて表
之也万葉六又十八卷マンヤク小見コミ也勿見ナクミ混マシる也トて日
神ハ晝月ヒルツキ神ハ夜ヨルを所シ知シ者シて共ニ高天原タカマツラ小坐コイませバ
此國土コノクニツチりハ非ヒ多タ也食國シクニ也云イハ如何イカニ也云イハ師説シよ凡
之ノ久ク尔ニ也云イハ界限カギリ乃ニ義ヨシりて名ナけり東ヒガシあぢ垣カキを久
泥ネ也云イも此意コノイありハバ須佐之男スサノヲノヲ命ノミコトの天アメ小上コノウヘ玉タマ賜タマひ
時トキよ高天原タカマツラ所シ知シ者シ天照大御神アマテラスノミコトの欲奪我國クニヲ也詔ミコトひ又

其須佐之男命スサノヲノヲノミコトハ所シ知シ海原ウミノハラ也有アて次ツギよ不治ナシ所命シ之國ノクニ
也伊邪那伎命イセナニギノミコトの詔ミコト了シも本皇御孫命ミコトノミコトの所シ知シ者シ天下
乃カ界限カギリを國クニ也云イより其名ナを上ウヘ神代カミヨ了シも廻マシりて各所シ
知シ者シ界限カギリを如此カク天アメよまれ海ウミよまれ國クニ也ハ云イ傳ツタへし
なり也曰イハし此説コノイりて聞キえりハ。統紀トウキ廿一ニ食國高
座イ字ジを原ハラ也寫シ誤アる也ハ。つて天照大御神アマテラスノミコトハ晝ヒル也ハ
也他タ乃カ例レ也ハ知シる也ハ。夜ヨル晝ヒル也ハ對ツりて書紀フシキ又次ツギ生ナ月ツキ神カミ
あくて全高天原モトハラ也詔ミコトひ此神コノカミハ夜ヨルまゝ食國シクニ也詔ミコトふ
は是又界限カギリ也意イ何ナニりハ。夜ヨル晝ヒル也ハ對ツりて書紀フシキ又次ツギ生ナ月ツキ神カミ
其光彩ヒニツギラヒカリウルハレ亞日ヒニナラヒテラセトナリ也ハ配ツ日ヒ而治ニシテ故ユ亦送オソ之ヲ于天アメ也見ミ也一書
よハ月讀尊ツキヨミノミコト者ノミコト可以治ニシテ滄海原アヲウナハラ潮シホ之ノ八百重ヤハ也ハ也何ナニりハ。此

書ハ此記の趣大氏同ト ○海原その名ハ古書小常
見えつる中小万葉五 二十丁 小宇奈波良 三十丁 宇奈原十
四 二十丁 宇奈波良あぢあり書紀ハ アラウスラ 滄溟万葉廿 六十丁 小
阿乎宇奈波良あぢあり見えつる 右乃如く万葉又波ハ
書バ清くよむ 皆清音乃假字をのみ 和名抄ハ滄溟を阿乎宇三波
良あり いして 書紀ハ須佐之男命ハ是性好殘害故
令下治根國ヤも可以治天下也ヤもあるハ異ある傳
ヤもなり ○三柱御子神ふら小依一賜了る處右の如
とあり 書紀乃諸書乃傳ハ各異なり 書紀乃諸書乃傳ハ各異なり
柱を生坐也然也日本ハ三柱共ハ天所生也 此三
神なり然也 書紀乃諸書乃傳ハ各異なり 書紀乃諸書乃傳ハ各異なり

此國詔天上帝所知 此國詔天上帝所知 此國詔天上帝所知
汝無道不可以君臨宇 汝無道不可以君臨宇 汝無道不可以君臨宇
柱共尊字を用ひ 柱共尊字を用ひ 柱共尊字を用ひ
此國必多所殘傷云々 此國必多所殘傷云々 此國必多所殘傷云々
治も尊小滄海原素戔嗚尊 治も尊小滄海原素戔嗚尊 治も尊小滄海原素戔嗚尊
又一書ハ須佐之男命 又一書ハ須佐之男命 又一書ハ須佐之男命
又一月神小可配日而 又一月神小可配日而 又一月神小可配日而
みハ猶異なり みハ猶異なり みハ猶異なり
の遂ハ根國又 の遂ハ根國又 の遂ハ根國又
給了るハ皆同じ 給了るハ皆同じ 給了るハ皆同じ
如何ヤ云小豊葦原之水穗國 如何ヤ云小豊葦原之水穗國 如何ヤ云小豊葦原之水穗國
後小天照大御神の詔了る 後小天照大御神の詔了る 後小天照大御神の詔了る
皇御孫命の所知 皇御孫命の所知 皇御孫命の所知
看次 看次 看次
深き所以 深き所以 深き所以
ありける ありける ありける

あるは、ついで月日、神の善ハ天小須佐之男、命の悪ハ
終小根國ニ歸賜する。その善神也、悪神也の御誓の中
小生坐る御子の御子也。此天下を永く所知者る也。又
深き所以何るは、浅きものなり。抑神代の初より。如此る
幽契あり。所知者一来る天皇の天日嗣あり坐ませ
ば、天地の共常磐堅磐小、動き坐るは、移ひ坐るもあ
り。よりををきり。○人ハ人事を以て神代を議る也。世
識者、神代乃妙理の御所爲を識ふる也。何るは、此を
曲て、世に凡人比う事、小説なるは、ふか漢意は、瀾
ゆるあり。我ハ神代を以て人事を知り。いづそわか
もむ、其委曲小説む、凡て世間のありふぬ代、

時、小吉善事凶悪事、おぎく小移玉もてゆく理ハ、大
きあるも小きも。天下小開かる大事より。民草凡悉小
此、神代の始乃趣ニ依るものなり。其理の趣ハ、女男大
神の美斗能麻具波比より始まりて、鳴國諸乃神とつ
を生坐し。今如此三柱貴御子神小、分任一賜するまが、
小皆備りれ也。此、間乃おぎくの事、おも乃趣を以て、世
其ハ、お美斗能麻具波比、何りてより。國ニ神とを生
坐るまが、ハ、皆吉善ある也。但、初小女男の御言、奉乃
根、おぎく、火神の生坐る小、因て、火ハ、世中乃大用を
い、おぎく、い、おぎく、此神乃斬られ、おぎく、血より成坐
ふ、神も、おぎく、大功を、おぎく、給ふ、おぎく、此、火、神乃生、ま、を

○古事記傳七

○十二

りも御母神の神避坐し、ハ世の凶悪事の始ふ
 吉善あり。凶悪事小因て死ぬ。ハ此理なり。九く死ぬ
 至。世人乃凶病小何ふまれ。凶惡をふて火神
 凶。如く此吉事ハ病を兼ふれ。ハ此神の生坐るハ吉あり
 凶。小移ふ際なり。火ハ大用をせ。又物を亡失以
 り。無も。是り過ふ。かゝて黄泉國ハ。かく凶惡小因て
 女神の移往て。至凶小移ふなり。永く止坐國あるガ
 故。世間の凶惡の帰止る處ありて。又世間の凶惡純
 出來る處なり。女神ハ火神を生坐るま。ハ物を成
 坐て。惡神を授り。賜り。かの汝國乃人草一日。小千頭
 絞殺す。ハ神あり。去。惡神あり給る。あ。禍津日
 神乃生坐。ハ。男神も彼國に追往て。居。る。凶惡
 小觸る。ハ。世間を。凶惡小あ。る。なり。
 天照

大御神乃。去。つ。く。天。石。屋。刺。隱。死。事。又。後。世。小
 天下乱。物。成。ハ。時。あり。あ。ま。ひ。く。始。終。を。り。善。神
 男神ハ。然。る。中。間。小。い。は。く。此。穢。惡。小。觸。る。る。
 あり。世。中。ハ。善。事。中。あり。必。い。は。く。ふ。れ。男。神。ハ。
 の。惡。事。ハ。ま。で。死。ん。で。い。え。わ。ぬ。趣。を。ま。は。れ。男。神。ハ。
 速く。顯。國。小。還。坐。て。御。禊。た。る。は。是。凶。惡。より。吉。善。小
 小。凶。惡。を。直。して。吉。善。事。を。行。ふ。其。時。小。先。禍。津。日。神。の
 成。出。坐。る。ハ。全。彼。黄。泉。國。乃。穢。惡。小。因。坐。る。哉。吉。善。小。移。
 際。あり。故。了。先。其。初。り。ハ。此。神。の。成。坐。る。なり。ふ。て。世
 中。小。凶。惡。事。乃。あり。ハ。ふ。尔。彼。穢。惡。より。生。坐。る。此。神。乃
 御。心。其。穢。惡。を。被。ひ。清。免。直。して。方。小。直。し。直。毘。神。成。坐。
 伊。豆。能。賣。神。成。坐。り。此。三。柱。貴。御。子。神。の。成。出。坐。て。然
 伊。豆。能。賣。神。乃。中。小。も。不。須。佐。之。男。命。ハ。惡。神。小。ま。始。

○古事記傳七

○十三

終善神小まゝおせやもあはれおひよ天照大御
ハ穢惡ハ觸ふまひり理ふよはり。ちひよ天照大御
神の高天原を所着以ハ又全吉善小復せらるあき
なほ此大御神は須佐之男命の荒びり得堪るまハ
大乱大逆事ハ必あきてハえあぬ理り其本ハ皆
黄泉乃凶惡より出ふ形り然も大御光ハおひよ
障られはく賜ハ文御照一坐まゝ皇御孫命此天下を
をく無窮小世を御照一坐まゝ皇御孫命此天下を
所知着て皇統ハ千萬世乃これぞ此世間の所は
未まご小動まゝハぬ。これぞ此世間の所は
趣なりを。古今治乱吉凶の趣よりかゝらるなり
此次第の趣を熟く味ひく世間乃何にかつら何
事も吉善より凶惡を生し。二柱神諸神を生ふまゝ
坐凶惡ハ出来せり何事もふふかく此凶惡より吉善
如く凶惡ハ吉善よりたろるものぞ凶惡より吉善

伊邪那岐命黄泉の穢し觸るまゝ凶惡
よよりて御禊し月日神ハ成出坐
せれ何事もみまかくの如く吉互ふりちるゆ
善ハ凶惡よりあくる生死一日ハ夜晝一年ハ春秋あ
理を成るはく人の生死一趣り世中ハ吉善事のみ
あゝあゝ凶惡事も無く又然凶惡は何れも終小吉
善小勝事ハハる理も知はく乃ハ女神の顯國
千人殺し多まらば男神乃一日小千五百人を生出し
免ふあゝこれあり後須佐之男命乃荒びるあゝ
よりて天照大御神天石屋ハ隠らせれあゝ
又出坐く永く世を御照一坐し須佐之男命ハ逐はせ
ふあゝも又人ハ必凶惡を忌去て吉善を行ふは理
此理あり。伊邪那岐命の黄泉の穢惡を忌惡ひ
をも知はるあり。伊邪那岐命の黄泉の穢惡を忌惡ひ
男命乃二凶惡を逐はれ御禊志ふまは是あり後須佐之
て世人ハ凶惡を直しく吉善を為はる道ハ彼御禊乃

故各隨依賜之命所知者之中。

カレオノモクヨサシタマヘルミコトノマニクシロシメスナカニ
理、小よの、御、彼、大神、此、御、以て、世、人、
よ、凶、惡、を、忌、去、て、吉、善、を、行、子、を、教、諭、し、ま、り、
所、之、其、故、ハ、彼、御、楔、も、其、時、小、あ、や、ち、
ま、り、為、る、ま、り、ハ、非、故、元、來、産、巢、日、神、乃、御、靈、
乃、御、心、か、為、る、ま、り、ハ、穢、惡、を、穢、惡、し、
日、神、乃、御、靈、小、よ、り、て、凶、惡、を、
乃、物、之、生、ま、り、誰、が、教、ふ、ま、り、
ら、之、の、必、吉、善、な、ら、ぬ、
入、て、穢、惡、小、觸、る、ま、り、又、三、柱、貴、御、子、神、乃、中、
須、佐、之、男、命、の、ま、り、奇、
坐、以、理、小、よ、る、ま、り、
か、と、妙、な、ら、ぬ、
理、
凡、を、世、間、古、今、萬、事、此、
理、
ハ、ヤ、マ、サ、ノ、ヲ、ノ、ミ、コ、ト、ヨ、リ、シ、タ、マ、ヘル、ク、ニ、ヲ、シ、ラ、サ、ズ

速須佐之男命不知所命之國

テ、ヤ、ツ、カ、ヒ、ゲ、ム、ナ、サ、キ、ニ、イ、タル、マ、デ、ナ、キ、イ、サ、チ
而。八拳須至于心前。啼伊佐知

伎也。自伊下四字其泣狀者音
キ、
伎、也、
以、音、下、效、此、
ソ、ノ、ナ、キ、タ、マ、フ、サ、マ、ハ、ア、ラ

山如枯山泣枯河海者悉泣乾
ヤ、マ、ヲ、カ、ラ、ヤ、マ、ナ、ス、ナ、キ、カ、ラ、シ、ウ、ミ、カ、ハ、ハ、コ、ト、
山、如、枯、山、泣、枯、河、海、者、悉、泣、乾、

是以惡神之音如狹蠅皆滿萬
コ、ヲ、モ、テ、ア、ラ、ブル、カ、ミ、ノ、オ、ト、ナ、ヒ、サ、バ、ハ、ナ、ス、ミ、ナ、ワ、キ、ヨ、ロ、ツ、ノ、
是、以、惡、神、之、音、如、狹、蠅、皆、滿、萬、

物之妖悉發故伊邪那岐大御

神詔速須佐之男命何由以汝

不治所事依之國而哭伊佐知

流爾答白僕者欲罷妣國根之

堅洲國故哭爾伊邪那岐大御

神大忿怒詔然者汝不可住此

國乃神夜良比爾夜良比賜也

自夜以下故其伊邪那岐大神

者坐淡海之多賀也

各ハ、称徳紀の詔乃中小於乃毛於乃毛也、所ふ依て、
如此訓法し、已も已も此義なり。○賜ハ、ふが崇辞あり。

新編自注

賜多云云崇辭乃云師説ハ其の云をよくふ終
らひ得ふよ云云故小自乃云云云云云云
何れ云云其故ハ奉云云物を賜ふより轉
ふ法云云其故ハ奉云云物を獻ふより轉
あり又敬辭小已云云侍候云云本ハ貴人乃
前小附云云云云申云云貴人又物を白云云
來云云凡て尊卑乃附言ハ其事實事云云
來る云云他乃例小右の如く賜ふ又志
る云云知法ハ但一已事小賜云云例多
いあごその解を得云云猶考法ハ強
己がうその事小御座有申云云多し御座
を尊て云言あれ對ふ人を崇し云云
ふもかく崇言を附云云何れ又御見廻申
あやも己がうその御座附云云これふ
多語あり云云これバ已がうその賜
ふ云云云云のふがひ云云賜
○命ハ御言あり○隨

續紀九詔小吾孫將知食國天下止與佐斯奉志麻爾麻

爾あぢ何り○所知看此言古書小常多し祝詞式小所
知食古語云志呂志女須云何り万葉歌小ハ之良志賣
之也處ニ十八の廿丁二十此小何り志良志志呂
看を伎許志米所知の意ハ上此卷小云るが如く看ハ
須云云小同じ所知の意ハ上八葉小云るが如く看ハ
見以云り但一常小使人見を見以云云ハ異て
見を美須云見賜を美志賜云一乃古言あり
次立を格あり例ハ万葉一二十小埴安乃堤上尔在立
之見之賜者見多あり六三十小我大王之見給芳野宮
者十九三十小見賜明米多麻比又見之明良牟流此
今本ハ古言を多しあぢあり此見之を賣之也
訓を誤る處多し

○古事記傳七

○十七

も通り云るハ万葉二二十五丁小召賜良之神岳乃山之
黄葉半云明日毛鴨召賜万旨見之ふまふ
十八二十三丁小余思努乃美夜乎安里我欲比賣須見之
引る六卷乃奇二十五丁小賣之多麻比安伎良米多麻比
又六十丁於保吉美能賣之思野邊尔波又右の六
合せく曉ハ過去ハ見ハカレバ所知者あ
あく下乃思ハ過去ハ見ハカレバ所知者あ
此者本は物を見あハ見ハカレバ所知者あ
通ほ一用不由ハ上小云るガ如し万葉一二十丁小藤原
我字倍尔食國乎賣之賜牟登二三十四丁小吾大王乃所聞
見為背友乃國之あハ見ハカレバ所知者あ

看小食字を也書ハ物食物見る也通ハ一云也
是も既り上よ云五今世人召賣須云も見以
より出ふる也中卷倭建命段小看行也彼の処ハ
字乃る也ハ中卷倭建命段小看行也彼の処ハ
○所命之國ハ下卷朝倉宮段小忘所命之事也
ハ淤布世賜比之事也訓法しハ此も彼小效は
淤布世賜志國也訓むハ續紀一丁小天皇命授賜比負
賜布大命乎又廿一丁小此天日嗣高座之業乎拙劣朕
尔被賜氏仕奉止仰賜比云々あの外も多く見ゆ
乃意なりハ此ハ下も汝不治所事依之國也
也ハ猶余佐志賜幣苗國也訓法ありあの國ハ即海

原を云。上文あり。○不治ハ乎佐米受且訓むも悪ク

死シのシやシなシス良佐受氏シの訓法シ。其故ハ天下所知者

古言あり。御宇御宙シの書シするも皆然訓る也。中卷

必斯呂志賣須。上の所知者シの言シを承シて云。法シをシバあ

五。○八拳須夜都迦比牙シの訓ハ拳シの意ハ十拳シの下

小既云五。あや八束穂シの云五。何シも必ハ小限る

ふ非シの弥束シあり。長シの由シあり。須ハ鬚の本字あり。

説文小面毛也。注シせり。漢書註シハ在シ頤曰須。和名抄

ふ。鬚口上鬚也。加美豆比介シ鬚鬚頤下毛也。之毛豆比介

見えシり。或人比介シハ鱗毛の意シ云五。然有シハ又

秀毛シあり。○心前ハ年那佐伎シの訓法シ。今

世シも云シるなり。天若日子乃シのシ高シ坂シ云シふ

誤あり。彼シハ。○至シハ伊多流麻傳シの訓シ。但尋常シハ此字

を如此シの訓シハ聊言の意異シあり。此シハ至シの意シあり。伊

多流シハ心前シに至シるなり。麻傳シハ成長シ坐シて。如此シる頃シに

てシ云シふあり。玉垣宮段シハ本年シ智別御子シのハ拳

鬚シ至シ于心前シ真事登波受シあり。此シハ齡シの長シくか

死シるを云シふ古語なり。凡シてシのシ上シ代シの語シハ如此シ其シの

く其狀シを寛舒シ云シふ。のシ雅シなり。なるシとのシなり。然

る。勇悍之異相シを云シふ。注シ多シあり。○啼伊佐知伎書紀シハ

ハ哭泣悲恨^{ナキイサチフツ}何^ナ神功^ナ卷小^{イサチ}血泣^ナ欽明^ナ卷小^ナ大息^ナ涕泣^ナ
なげ毎^ナ何^ナ至^ナ佐^ナ悪^ナし。伎^ナハ詔^ナ辞^ナあり。此^ナ言^ナ此^ナの外^ナ小
ハ古書^ナ小^ナ定^ナり小^ナ見^ナえつる^ナ物^ナ也^ナ。谷川氏^ナハ猶^ナ言^ナ足^ナ
摩^ナ而^ナ泣^ナ也^ナ。小^ナ兒^ナ忿^ナ泣^ナ時^ナ有^ナ此^ナ狀^ナ也^ナ。云^ナ云^ナ云^ナ云^ナ有^ナむ。書^ナ紀^ナ
恨^ナ字^ナを^ナ加^ナす^ナ也^ナ。伊^ナ佐^ナ留^ナ云^ナも。此^ナ伊^ナ佐^ナ也^ナ。本^ナ同^ナト^ナ言^ナふ^ナ也^ナ。上^ナ
小^ナ甫^ナ富^ナ御^ナ枕^ナ方^ナ云^ナ哭^ナ也^ナ。何^ナ狀^ナも^ナ似^ナり。然^ナら^ナば^ナ泣^ナ澤^ナ女^ナハ^ナ啼^ナ
伊^ナ佐^ナ波^ナ如^ナ乃^ナ意^ナ也^ナ。万^ナ葉^ナ五^ナ丁^ナ。小^ナ立^ナ乎^ナ杼^ナ利^ナ足^ナ須^ナ里^ナ佐^ナ家^ナ婢^ナ伏^ナ仰^ナ
武^ナ祢^ナ宇^ナ知^ナ奈^ナ氣^ナ吉^ナあ^ナげ^ナも^ナ何^ナり。出^ナ雲^ナ風^ナ土^ナ記^ナ小^ナ阿^ナ遲^ナ須^ナ积^ナ
高^ナ日^ナ子^ナ命^ナの^ナ晝^ナ夜^ナ哭^ナ坐^ナし^ナあ^ナげ^ナ見^ナえ^ナり^ナ。そ^ナハ^ナ彼^ナ神^ナの^ナ處^ナ
小^ナ引^ナ流^ナし。○泣^ナ狀^ナハ^ナ那^ナ伎^ナ賜^ナ佐^ナ麻^ナ也^ナ訓^ナ流^ナし。○青^ナ山^ナハ^ナ木^ナ

草^ナハ^ナ茂^ナ至^ナて^ナ青^ナ々^ナ見^ナゆ^ナる^ナ山^ナを^ナ云^ナて^ナ沼^ナ河^ナ比^ナ賣^ナの^ナ歌^ナ小^ナ
阿^ナ遠^ナ夜^ナ麻^ナ也^ナ何^ナ始^ナ免^ナ古^ナ書^ナ小^ナ多^ナく^ナ見^ナゆ^ナ。○枯^ナ山^ナハ^ナ枯^ナ
字^ナの^ナ意^ナも^ナて^ナ木^ナ草^ナハ^ナ無^ナき^ナ山^ナを^ナ云^ナある^ナ流^ナし。凡^ナて^ナ物^ナの^ナ無^ナ
と^ナて^ナ空^ナを^ナ迦^ナ良^ナ也^ナ云^ナ。そ^ナレ^ナ意^ナあり^ナ。又^ナ字^ナ小^ナ依^ナて^ナ云^ナ。本^ナ
有^ナ一^ナ木^ナ草^ナハ^ナ皆^ナ枯^ナて^ナ無^ナく^ナ形^ナり^ナ。山^ナ冬^ナ枯^ナの^ナら^ナ乃^ナ
聞^ナえ^ナ又^ナな^ナ流^ナく^ナの^ナ木^ナハ^ナ枯^ナあ^ナが^ナ。て^ナ迦^ナ流^ナハ^ナ水^ナの^ナ涸^ナ
ら^ナ樹^ナハ^ナ山^ナ有^ナる^ナ流^ナく^ナも^ナあ^ナら^ナ。て^ナ迦^ナ流^ナハ^ナ水^ナの^ナ涸^ナ
声^ナ乃^ナ嗶^ナあ^ナげ^ナも^ナ乾^ナる^ナ意^ナも^ナて^ナ草^ナ木^ナの^ナ枯^ナる^ナも^ナ潤^ナ澤^ナ乃^ナあ^ナく
なる^ナぬ^ナれ^ナバ^ナ同^ナ意^ナあり^ナ。又^ナ物^ナの^ナ無^ナき^ナを^ナ迦^ナ良^ナ也^ナ云^ナも^ナ。此^ナ意^ナ
より^ナ轉^ナる^ナる^ナや^ナ何^ナも^ナひ^ナり^ナ。然^ナら^ナば^ナ初^ナの^ナ義^ナも^ナい^ナて^ナ
枯^ナを^ナ迦^ナ良^ナ也^ナは^ナ難^ナ波^ナ高^ナ津^ナ朝^ナ小^ナ船^ナ名^ナ枯^ナ野^ナ怒^ナ也^ナ何^ナり。

あぢ何り古言なり。しる書紀皇極卷小。鞍作得志が奇
 術を云中小。或使枯山變為青山や云るあり。○河海
 ハ宇美加波や訓法し。○乾ハ富志伎や訓法し。伎ハ詔
 此言ハ比布富や活用なり。布云る例ハ書紀云賦やあ
 來の伎久許や活くぐ如し。ふは富須ハ令乾なり。さ
 書紀小ハ此神有勇悍以安忍且常以哭泣為行故令
 國內人民多以矢折よ。此神性惡常好哭悲。國民多死。
 青山為枯あぢ何るを。此記ハ人民を害し賜ふあぢ
 せ云ぬハ山海河までを云ふバ。人民を始免万物を賜
 害し賜ふるやハ。自己もゆるも抑此神の啼給ふハ

因て山海河の枯乾ふハ。如何ある理ふハ何し。泣
 乃出る故。其涙乃のり。取られ山海河乃潤澤。
 ハ潤ふ。乃何し。潤澤乃潤ふ。山海河乃枯傷。
 はる。是れ此神ハ如此るハ。伊邪那美命の人草一日
 千頭を絞殺す。詔る驗あり。此神ハ。妣命の黃泉
 の汚垢乃残る。しり成坐ふが故なり。例の漢籍小ま
 云。此五行乃説を引よ。此神を金性乃神なり。や
 且。ハ可笑。若然らハ。金生水。故云ハ。ハ。惡きと
 海河を泣乾。しるは。如何云。○惡神書紀神代
 下卷一書。皇御孫命の天降坐むる處。葦原中國
 者。磐根木株。叶猶能言語。夜者若燹火而喧響之。晝者
 如五月蠅而沸騰之云。喧響此云。淤等娜比。五月蠅此

云左廢倍ハトあしト本書小彼地多有螢火光神及蠅声邪神。
復有艸木クサモキモ咸能言語ナリ。訓ハいハ云ハ螢火ホタル光カミ神カミ及ハ蠅声ハエ邪神アサシ。
小か、はるハ法ホさハるハ。又ハ如ハ五月ハ蠅ハをハこハくハ字ハ。
をハ畧ハすハ。蠅ハ声ハをハ畧ハすハ。まハれハ。このハ螢火ハもハりハれハ。あハらハ。
ふハ。小ハ。如ハ。字ハをハ畧ハすハ。まハれハ。このハ螢火ハもハりハれハ。あハらハ。
法ハまハ。あハりハ。元ハ。くハ。螢火ハ。やハ。書ハ。ハハ。漢文ハ。了ハ。こハ。をハ。何ハれハ。此ハ。方ハ。又ハ。やハ。
あハ。らハ。無ハ。きハ。りハ。やハ。何ハ。るハ。同ハ。處ハ。をハ。此ハ。記ハ。りハ。ハハ。葦原ハ。中ハ。國ハ。者ハ。云ハ。
云。於ニ此ニ國ニ道ニ速ニ振ニ荒ニ振ニ國ニ神ニ等ニ之ニ多ニ在ニ云ハ。こハ。何ハ。れハ。此ハ。をハ。
合セ。てハ。考ル。小ハ。かハ。のハ。御ミ。孫ミ。命ミ。のハ。將セ。天ニ。降リ。坐リ。時ハ。小ハ。此ハ。葦原ハ。中ハ。
國ハ。のハ。有リ。狀ハ。をハ。云ハ。るハ。也ハ。今ハ。此ハ。乃ハ。狀ハ。をハ。全ク。同ク。トハ。事ハ。ありハ。ふハ。れハ。バ。
このハ。惡シ。神ハ。もハ。阿ラ。羅ハ。夫ハ。流ハ。神ハ。也ハ。訓ハ。法ハ。をハ。なリ。書ハ。紀ハ。乃ハ。右ハ。のハ。邪ハ。
邪ハ。鬼ハ。もハ。あリ。有リ。もハ。ふハ。阿ラ。良ハ。夫ハ。流ハ。神ハ。也ハ。訓ハ。法ハ。をハ。なリ。書ハ。紀ハ。乃ハ。右ハ。のハ。邪ハ。
ハハ。字ハ。又ハ。かハ。りハ。りハ。古ハ。言ハ。ふハ。りハ。をハ。いハ。ぬハ。こハ。やハ。多シ。○音ハ。ハ。

淤ネ等ハ那ハ比ハ訓ハ法ハしハ。右ハ。引ル。書ハ。紀ハ。乃ハ。此ハ。言ハ。中ハ。古ハ。のハ。物ハ。語ハ。
あハ。らハ。みハ。もハ。多ク。見ル。えハ。こハ。淤ハ。登ハ。那ハ。布ハ。也ハ。云ハ。也ハ。○狹ハ。蠅ハ。ハハ。書ハ。
紀ハ。乃ハ。字ハ。ハハ。如ク。五ハ。月ハ。ごハ。らハ。ハハ。蠅ハ。ありハ。然ル。るハ。佐ハ。都ハ。伎ハ。也ハ。いハ。
つハ。ぐハ。佐ハ。也ハ。のハ。及ハ。云ハ。ハハ。田ハ。植ハ。るハ。農ハ。業ハ。をハ。元ハ。てハ。佐ハ。也ハ。云ハ。もハ。のハ。苗ハ。
をハ。佐ハ。苗ハ。のハ。意ハ。ハハ。早ハ。植ハ。るハ。女ハ。をハ。佐ハ。少ハ。女ハ。植ハ。始ハ。しハ。也ハ。
佐ハ。岡ハ。植ハ。終ハ。るハ。をハ。佐ハ。登ハ。あハ。らハ。云ハ。がハ。如ク。一ハ。つハ。てハ。又ハ。其ハ。業ハ。以テ。るハ。月ハ。
をハ。佐ハ。月ハ。也ハ。云ハ。こハ。ちハ。今ハ。月ハ。也ハ。心ハ。得ハ。其ハ。頃ハ。のハ。雨ハ。をハ。佐ハ。乱ハ。也ハ。云ハ。あハ。
乱ハ。也ハ。ハハ。久ハ。くハ。雨ハ。ふハ。こハ。をハ。云ハ。源ハ。氏ハ。物ハ。語ハ。ハハ。風ハ。雨ハ。をハ。空ハ。のハ。
抄ハ。云ハ。佐ハ。也ハ。又ハ。和ハ。名ハ。抄ハ。小ハ。麥ハ。李ハ。麥ハ。秀ハ。時ハ。熟ハ。故ハ。以テ。名ハ。之ハ。漢ハ。語ハ。
ふハ。こハ。のハ。佐ハ。也ハ。同ハ。一ハ。かハ。れハ。狭ハ。蠅ハ。もハ。田ハ。植ハ。ふハ。りハ。乃ハ。蠅ハ。也ハ。
云ハ。意ハ。のハ。称ハ。ありハ。其ハ。頃ハ。殊ハ。也ハ。此ハ。虫ハ。ハハ。多ク。かハ。故ハ。也ハ。名ハ。小ハ。負ハ。也ハ。

ふちり。○如字那須や訓法し。石屋の段。即狹蠅那須
や書五。碁登久の古言あり。上傳三乃小いりるが如し。
○滿字ハ。涌の誤。あも法し。書紀ハ。沸騰や云。其文上
出雲國造神賀詞も。晝波如五月蠅水沸支夜波如火
瓮光神在石根木立青水沫毛事問天荒國在利やあれ
バあり。水沸乃水ハ借字あり。美那や訓法し。此滿やそ
ハ解えがし。書紀允恭卷小蠅散万葉三小五月蠅成
驟騷舍人五小五月蠅奈周佐和久見等あや見ゆ。うそ
涌やハ。あも騷ぐ状をのみ云りハ非で。涌出て騷を云
あも法し。○萬物之妖。書紀神武卷小妖氣やあも。此

ハ右小引る書紀。磐根木株云々。此事右の神賀詞又
あもあも事等小當まり。是物言まぐ。多物の言ハ。妖性
あもと云なり。唯文乃あも小意得法し。例のふもく生
取。うそ此記小萬物やあれバ。如此る事ハ。妖やも。あ
種く有まじ。磐根云々ハ。其中ハ。一二を挙て。詔傳可
ふる古言なり。彼や此や。時ハ異あれども。其事状。うそ
ナニミナレかく。ナニトくニシかく。ハ全く同き。うそ。上云るが如し。うそ
某皆云く。某悉云く。二事を並言ハ。皆や悉や。を對云
るや。下小山川悉動國土皆震。あも高天原皆闇葦原中
國悉暗あも。あも。うそ。祝詞。式ハの廿三。小荒振神等乎。
神攘く給比。神和く給且。詔問志磐根樹立草之片葉毛

語止豆^{コトヤシテ}字^ジ何^{ナニ}語^{コト}を味^{アジ}ふよ荒神^{アラガミ}を攘平^{ハジメ}し^バ此^{コノ}妖^{マギ}も
 止^トし^タあり^ニ此^{コノ}又^{マタ}視^ミふ^ルれ^バ今^{イマ}此^{コノ}妖^{マギ}の發^{ハク}る^ルも惡神^{アクガミ}の沸出^{ワキダ}
 騷^{サカ}ふ因^ユてあり^ニ又^{マタ}此^{コノ}妖^{マギ}の發^{ハク}る^ルも惡神^{アクガミ}の沸出^{ワキダ}
 かく惡神^{アクガミ}涌出^{ソウダ}萬^{マン}妖^{マギ}の發^{ハク}る^ルも惡神^{アクガミ}の沸出^{ワキダ}
 坊^ガよりの根^ネづ^ルに^シて^モ既^スに^モ云^ハる^ルが如^シ故^コ道饗祭^{ミチウケサヒ}祝詞^{イハヒ}小
 根^ネ國^{クニ}底^{ソコ}國^{クニ}与^{ヨリ}里^リ廉^{レン}備^ビ疎^ソ備^ビ來^キ物^{モノ}尔^ニ云^ハこ^ト也^{ナリ}云^ハ五^イ後^{ノチ}世^ノ神^{カミ}道^{ミチ}
 此^{コノ}義^{イハレ}又^{マタ}暗^{カク}ま^ハい^ハり^シ也^{ナリ}○何^{ナニ}由^ユ以^テハ^シ那^ナ尔^ニ登^ト加^カ母^モ也^{ナリ}
 訓^{ツケ}流^{リウ}書^{ショ}紀^キ孝^{コウ}德^{トク}卷^{クワン}歌^カ又^{マタ}那^ナ尔^ニ騰^{トウ}柯^カ母^モ于^ニ都^ト俱^ク之^シ伊^イ母^モ我^ガ
 磨^マ陀^ダ在^ニ相^{サウ}涅^{ニエ}渠^ケ農^{ノウ}也^{ナリ}何^{ナニ}依^ヨ也^{ナリ}元^{ハジメ}て^モ難^{ナカ}詞^ジハ^シあ^ハし
 又^{マタ}古^コ来^キ小^コよ^リ又^{マタ}下^{シタ}の^ノ語^{コト}勢^セも^モみ^ミふ^フ似^ニる^ルれ^バあ^ハり^シ

○伊^イ佐^サ知^チ流^{リウ}その知^チ字^ジ甚^シ疑^ギは^シ其^{ソノ}故^コハ^シ万^{マン}れ^レ活^{カク}動^{ドウ}言^{ゴン}乃^{ナリ}
 中^{チュウ}小^{コウ}第^{ダイ}三^{サン}音^{オン}ふ^フと^ト次^ジ於^ヨぬ^ヌより流^{リウ}連^{レン}了^{リョウ}る^ル其^{ソノ}第^{ダイ}三^{サン}音^{オン}
 第^{ダイ}二^ニひ^ヒみ^ミい^イる^ル也^{ナリ}第^{ダイ}四^シえ^エま^マせ^セて^モ終^{ハシ}る^ル也^{ナリ}其^{ソノ}音^{オン}小^{コウ}轉^{テン}し
 て流^{リウ}連^{レン}る^ルハ^シ悉^{シツ}く^ク近^{キン}世^セの^ノ俚^{ライ}言^{ゴン}なり^シ其^{ソノ}例^{レイ}を^シ且^カば
 ら^レび^ビる^ル生^{セイ}る^ル也^{ナリ}云^ハ類^{レイ}ハ^シ第^{ダイ}二^ニ音^{オン}又^{マタ}轉^{テン}せ^セる^ルなり^シ
 得^{トク}る^ル也^{ナリ}受^{ウケ}る^ル也^{ナリ}云^ハ令^{レイ}見^{ケン}る^ル也^{ナリ}云^ハ立^{タチ}る^ル也^{ナリ}
 重^{オモシ}ぬ^ヌる^ル也^{ナリ}云^ハ類^{レイ}ハ^シ第^{ダイ}四^シ音^{オン}又^{マタ}轉^{テン}せ^セる^ルなり^シ
 此^{コノ}也^{ナリ}伊^イ佐^サ都^ト流^{リウ}云^ハむ^ムる^ル也^{ナリ}雅^ヤ言^{ゴン}なり^シ知^チ流^{リウ}云^ハる^ルハ
 い^イる^ル也^{ナリ}此^{コノ}右^{ミダ}の^ノ荒^{アラ}び^ビる^ル乃^{ナリ}格^{カク}り^テ猶^{ナウ}云^ハる^ル也^{ナリ}落^{オク}る^ル也^{ナリ}
 閑^{カン}る^ル也^{ナリ}皆^{ミナ}俚^{ライ}言^{ゴン}の^ノ格^{カク}なり^シ此^{コノ}差^サ別^{ベツ}ハ^シ今^{イマ}の^ノ世^セ也^{ナリ}書^{ショ}よ^リ
 如^シく^ク皆^{ミナ}俚^{ライ}言^{ゴン}の^ノ格^{カク}なり^シ此^{コノ}差^サ別^{ベツ}ハ^シ今^{イマ}の^ノ世^セ也^{ナリ}書^{ショ}よ^リ
 く^クば^バり^リの^ノ言^{ゴン}ハ^シ辨^{ベン}知^チて^モ訛^シら^レズ^シ况^カて^モ中^{チュウ}古^コ上^{カウ}代^{ダイ}の^ノ書^{ショ}

小ハ更サなり。これバ旧印本ハ。その知字ハ。都々訓ヲ。附
若上ニ伊佐知サ。何レハ。小效ナシ。初ニ。知ヲ。写シ。誤ス。也。
やあシ。び。○僕師云。此ハ。和礼ニ。訓テ。皇朝の古人
ハ直ニ。故ニ。虚言ヲ。貴人乃自ラ。其レ。云ク。
如キ。彼ノ。人ハ。卑下ト。甚ク。書キ。皆虚言ト。云ク。
其レ。信ニ。然ル。此ノ。僕も書紀ノ。吾レ。あり。
父曰。母死曰。考曰。妣ハ。意ニ。此字ハ。書ル。あり。む。
万葉ノ。波ハ。小此字書ル。所ニ。あり。父母ト。加カ。叙シ。伊呂
波ト。云ク。古キ。稱ヲ。心ヲ。

得テ。古書ヲ。皆然ト。訓ル。如何ナリ。万葉ノ。其レ。婆ノ。也。
止ニ。須藤ノ。夫人ノ。乎ニ。伊呂波ト。云ク。外ニ。波ト。云ク。其レ。婆ノ。也。
ハ多ク。見ル。唯ニ。書紀ノ。顯宗ノ。卷ニ。鹿父ト。云ク。人ノ。名ヲ。有ル。其レ。婆ノ。也。
マ俗ニ。呼フ。父ト。為シ。柯ト。爾ト。又ニ。伊呂波ト。云ク。後ニ。乃チ。大江朝綱ト。
云ク。所ニ。ハ。何レ。又ニ。伊呂波ト。云ク。後ニ。乃チ。大江朝綱ト。
哥ト。非ズ。然ル。和名ト。抄ニ。父ト。加カ。曾母ト。伊呂波ト。云ク。俗ニ。父ト。知ル。
母ト。波ト。云ク。古キ。稱ヲ。知ル。父ト。加カ。曾母ト。伊呂波ト。云ク。俗ニ。父ト。知ル。
も伊呂波ト。云ク。古キ。稱ヲ。知ル。父ト。加カ。曾母ト。伊呂波ト。云ク。俗ニ。父ト。知ル。
何レ。伊呂波ト。云ク。古キ。稱ヲ。知ル。父ト。加カ。曾母ト。伊呂波ト。云ク。俗ニ。父ト。知ル。
訓テ。此ハ。伊邪那美命ト。指テ。白賜ニ。あり。抑テ。
三柱貴御子ト。神ト。伊邪那岐大神ト。の御ニ。成リ。
坐シ。伊邪那美命ト。の生ミ。坐ス。神ト。等ト。非ズ。ぬ。妣ト。白ク。
賜フ。い。い。ふ。云ク。かの御ニ。成リ。坐ス。神ト。あり。ハ。元ト。

を尋ぬまはふに伊邪那美命に黄泉の穢惡より起るが故に其時の十四柱神も猶伊邪那美命を以て御母を依りたり。黄泉乃穢惡也御楔の清日神を依り御楔の清方小依坐て善神此須佐之男命ハ惡臭のなるり消難き御鼻よ成坐て殊に御母乃方よ依坐り惡神なり故終に其國小歸き坐於根之堅洲國根をハ下底に有故云草木の根根國ハ出雲之男命の配所乃名なりを堅洲國ハ元隅國の意云説ハ例乃私の漢意なり堅洲國ハ元隅國の意云是をハ横東南西北の隅にハあして豎上下の片隅をて下

於底の方を云なり書紀に極遠之根國也あるも下可遠きを云帶中日子天皇を汝者向一道神の詔可るも片隅を往け云むが如くして隅を須云云る例ハ書紀に所謂天日隅宮を出雲風土記に天日栖宮也何須字ハ古書必又記中亦天之御巢也云るも日隅を通り姓氏録に宗形朝臣祖の吾田片隅命云何如か如くして此根國云ハ即黄泉國のあり下小須佐之男命所坐之根堅洲國也何○罷元て麻加流也ハ貴所より退去るを云故去所を尊み趣言なり万葉十八は京より越中可來出るを云越中なり未可利天也よなり此意よりなり参ハ

貴所^キ向行^{ムキテ}を云^フハ出^デる方^{カタ}を卑^ヒくして、趣^スや反對^{ウラナヒ}あり。
故^ユ中古^{チウコ}までハ此^{コノ}辨^{ワカ}を知^チて用^ユる。中^{チウ}昔^{コク}の物語^{モノガタリ}文^{モノ}を
も叶^ヒる。但^シ必^ズしも貴所^キありし神^{カミ}也^{ナリ}。同^{ドウ}か^クり^テの所^{トコロ}に
て^モ又^{マタ}對^{タイ}する人^{ヒト}を尊^{ウヤ}み^テ云^フ詞^{コトバ}ハ他^タに去^サる^ルを罷^ヒる
や^ウ云^フ又^{マタ}鄙^ヒろ^クを京^{キョウ}を行^ユるを罷^ヒるや^ウ云^フるな^リ。近代^{チンダイ}に至^キテハ
混^{マシ}ぬ。○此^{コノ}國^{クニ}須^ス佐^サ之^ノ男^ヲ命^ヲハ海^{ウミ}原^{ハラ}を所^シ知^チ者^ノあり。此^{コノ}國^{クニ}
や詔^{ミコトノコト}するハ高^{タカ}天^{アメ}原^{ハラ}又^{マタ}根^ネ國^{クニ}あり。對^{タイ}するハ海^{ウミ}原^{ハラ}もあ
り。此^{コノ}地^チあり。バ^ハうもあ^リる。○不可^{イカ}住^{ジュ}ハ那^ナ須^ス美^ミ曾^{ソウ}也^{ナリ}
訓^{ツケ}法^{ホウ}ハ○神^{カミ}夜^ヤ良^ラ比^ヒ云^フ。神^{カミ}ハ九^クて神^{カミ}之上^ノの事^{コト}ハ
多^{オホ}く附^{ツケ}云^フ詞^{コトバ}も上^{ウヘ}傳^{デン}五^イの六^{ロク}見^ミゆ。夜^ヤ良^ラ布^フハ本^{ホン}夜^ヤ流^{リュウ}
を延^{ノボ}する言^{コトバ}あり。良^ラ布^フハ流^{リュウ}良^ラ比^ヒ。これぞ用^ユ意^イハ聊^{リョウ}異^イふ。

ふ^ハ似^ニて。此^{コノ}夜^ヤ良^ラ比^ヒを。書^シ紀^キハ逐^シ書^シす。ふ^ハて^テかく
疊^{カサネ}て云^フ例^{レイ}ハ。神^{カミ}集^{ツク}。神^{カミ}祝^{イハヒ}。神^{カミ}議^ギ。神^{カミ}問^ト。神^{カミ}和^ニ。神^{カミ}掃^{ハラヒ}
掃^{ハラヒ}あり。如^ニ。皆^{みな}上^{ウヘ}ハ體^{テイ}語^ゴ下^{シモ}ハ用^ユ語^ゴあり。又^{マタ}中^{チウ}此^{コノ}ル^ルて
多^{オホ}辞^ジハ畧^{リョク}ても云^フ。伊^イ都^ト之^ノ知^チ和^ワ伎^キ知^チ和^ワ伎^キ氏^シあり。此^{コノ}
格^{カク}の言^{コトバ}なり。書^シ紀^キハ以^ユ神^{カミ}逐^シ之^ノ理^リ。逐^シ之^ノ也^{ナリ}もあり。之^ノ理^リの
例^{レイ}の撰^{セン}者^{シャ}乃^ハ漢^{カン}意^イのさ^ハら^ハ見^ミえ^ル。古^コ言^{ゴン}
れ意^イハ違^{チガ}ひあり。彼^{カノ}處^{トコロ}の分^ワ注^{チュ}。逐^シ之^ノ此^{コノ}云^フ波^ハ羅^ラ賦^シ也^{ナリ}。
ある波^ハ字^ジハ夜^ヤの逐^シハ今^{イマ}俗^{ソク}云^フ追^ツ放^フあり。ふ^ハて^テ此^{コノ}地^チを
寫^シ誤^{コト}ある。逐^シハ今^{イマ}俗^{ソク}云^フ追^ツ放^フあり。ふ^ハて^テ此^{コノ}地^チを
逐^シれ^ルふ^ハ故^{コト}。此^{コノ}故^{コト}ハ九^クて上^{ウヘ}を承^{ウケ}て云^フ辞^ジあり。此^{コノ}故^{コト}ハ
其^{コノ}云^フ。故^{コト}ハ九^クて上^{ウヘ}を承^{ウケ}て云^フ辞^ジあり。此^{コノ}故^{コト}ハ
必^{カナラ}しも上^{ウヘ}の事^{コト}を承^{ウケ}て。其^{コノ}故^{コト}云^フ意^イハ何^{ナニ}。此^{コノ}格^{カク}記^キ中^{チウ}

小多くある所なり。師ハ此上より多く此言勝なり。

○淡海ハ息長帯比賣命段哥小阿布美等所和名抄

小近江知加津阿不美等所ハ遠江ニ對す後云

る名小して古も今も常ハ近江や書てもう阿布

美や云なり。さて此ハ湖所故の名みして即阿波宇

美ハ切まり。淡海ハ潮あり。淡海ハ湖乃名なり。

其國をバ淡海國云ハ云淡海ハ淡海のふ云くは

國名ハ非るが如くあり。本を以てやがて未乃

常小例おやまらる。○多賀式ニ近江國犬上郡多

何神社二座や見ゆ。和名抄小田可郷所。是あり。

書紀小是後伊弉諾尊神功既畢靈運當遷是以構幽宮

於淡路之洲寂然長隱者矣亦曰伊弉諾尊功既至矣德

亦大矣於是登天報命仍留宅於日之少宮矣。

名郡淡路伊佐奈伎神社名神大。此記や合ふ小似たり。

母。旧事紀小淡路之多賀や云ハ。此記や書紀や取

合せよ。漫事ハ淡路あり。云小足。姑く多賀を

ふ。此記も本ハ淡路あり。路字を海小写し誤

え。近江ハ今小名高くて御社も坐す。此記ハ

固ニ淡海なり。又私記。日之少宮。是東北方之地。少陽

小留坐ミリまゝシ。乃傳レ紀ノの亦曰ク淡路ア多賀ガハ其御靈ミタマの
鎮坐シ御社ニなり。然るを構ク幽宮ウツミヤ云々トあるは後ノの
天上アマの日少宮ヒコミヤ小擬シて彼洲シマ小御社ミミヤを建テつゝをカくは
詔ミコトノ傳レりしるあり。凡て皇御孫命天降坐ミコトノて後ノ天上アマ乃
儀サマ擬シて此國コノクニみも其形カタをうク部ノ名ナをカくしるあり
例多し。又坐ス多賀タガ云々ト。譬ハ天照大御神アマテラスハ長トコシ小天上アマ
小坐スまシせシも伊勢五十鈴宮坐ス常トコシ小申シ。又大山オホヤマ咋ク
神カミを此神者坐ス近淡海國之日枝山ニギハヤヒ亦坐ス葛野之松尾クヰノマツノシ
も手力男神者坐ス佐那縣サナノ也ト。類ヒ乃例シて皆其神
を拜祭御社イツキマツをカくハ云々ト。古コの格サマあれバ淡路多賀

此處ココの合アヒぶルハ何ニ也ト。凡ニく神乃御事カミノミコトを云フ傳レりし
別ワカりしをカく同トトクあり云フ傳レりしも御靈ミタマ也トの差サ
後ノ世ノ小至シてハ此差別サバれをカく皆人乃疑シふル也ト多
きニ心得ココロあり。猶ナ此外ソノトモも此大神オホカミの坐御社イマスミヤハ大和國添ヤマトノソ
下郡葛下郡城上郡津國嶋下郡伊勢國度會郡若狹國
大飯郡出雲國出雲郡オホイヒノ也ト。何ニ也ト。式シキに載シり。○
坐スハ麻志麻須アサシマス也ト訓ツケ法ホウし。凡て此言コト上カミ乃麻志アサシハ坐ス字ジ小
何ニ也ト。居賜イマタマふル也ト。何ニ也ト。下シモの麻須アサシハ附ツケ云フ崇タカ辭コトバもて
賜タマハ云フもカくハカり。子コく麻須アサシ也ト多麻布タマフ也トハ似ニ多タ崇タカ
混マシ法ホウくシハ中古ナカコよりシハ坐ス也ト乃ハ御事ミコト小從シて差別サバれあり。相アヒ
てカくカく賜タマハ云フもカり。されバ古コ書カキ乃ハ訓ツケを附ツケるルハ
あの差別サバれを辨ワカふルハカり。そレハ此記コト又古コき宣命ノボリ祝イハ
詞コトバ也トを見ミく定サまシるル例レイを考カり知チ法ホウきナり。

カレコ、ニハヤスサノヲノミコトノマシタムカシカラバ
故於^レ是速須佐之男命言^レ然者

アテラスオホミカニマラシテマカリナムトマラシタマヒテスナハチアメニキノボリマス
請^レ天照大御神將^レ罷乃參上天

トキニヤマカハコトクニトヨミクニツチミナユノキコ、ニアマテラス
時^レ山川悉動國土皆震爾天照

オホミカニキ、オドロカシテアガナセノミコトノ
大御神聞^レ驚而詔我^レ那勢命之

ノボリキマスユエハカナラズウルハシキコ、ロナラジアガクニラウバムトオモホスニソトノリ
上來由者必不善心欲奪我國

タマヒテスナハチミカミヲトキミ、ヅラユマカシテヒダ
耳即解御髮纏御美豆羅而乃

リミギリノミ、ヅラニモミカヅラニモヒダ
於左右御美豆羅亦於御髮亦

リミギリノミテニモミナヤサカノマガタマ
於左右御手各纏持八尺勾璽

ノイホツノミスマルノタマラマキモタシテ
之五百津之美須麻流之珠而

自美至流四字ソビラニハチ
以音下效此曾毘良邇者負

千入之鞞ノリノユギヲオヒ訓入云能理下效イホ附イホ

五百入之鞞亦所取佩伊都ノリノユギヲツケマタイツノタカトモヲ此

字以之竹鞞而弓腹振立而堅トリオバシテユハラフリタテ、カタ

庭者於向股踏那豆美ニハムカモ、ニフミナヅミ三字如アツ

沫雪蹶散而伊都ユキナスクマハラカシテイ都二字之男建ツノヲタケビ

訓建云踏建而待問何故上來フミタケビテマチトヒタマハクナドノボリキマセルト、ヒタマヒキ

多祁夫コ、ニハヤス爾速須佐之男命答白僕者無サノミコトノマヲシタマハクアハキタナキ

邪心唯大御神之命以問賜僕コ、ロナシタツオホミカミノミコトモチテアガナキ

之哭伊佐知流之事故白都良イサチルコトヲトヒタマヒシユエニマラシツラ

久ク以以三字僕欲往妣國以哭爾大アハハノクニマカラムトガモヒテナクマラシカバオホ

御神詔。汝者不可在此國而神ミタカミ。
 夜良比夜良比賜故。以爲請將ヤラヒヤラヒタマフユエニマカリナムトスルサマヲ。
 罷往之狀參上耳。無異心。爾天マラサムトオモヒテコソマキノボリツレケキコトヲシタマハバ。
 照大御神詔。然者汝心之清明テラスオホミカミシカラバミシノコロノアカキコトハイカミ。
 何以知。於是速須佐之男命答シテシラマシトノリタマヒキコ、ニハヤス、サノヲノミコトオノモ。

白各字氣比而生子。オノモウケヒテミコウオトマラセタマフ。自字以下三字以音。

此下效

言ハ伊邪那岐命。小請奏賜あり。故書紀リハ先。此事を
 挙テ。次ニ構幽宮云々。此事を挙ル。然る小此ニハ先。
 坐淡海云々。伊邪那岐命の御事とバ云終て後。更
 小此事と云るハ。次序乱ル。小似ムレヤ然ラズ。下の
 乃參上天云々。此事云續じ。小此あり。此例記中。小處
 處あり。○請ハ麻表志豆。訓。書紀雄略。卷あり。小
 然訓る例あり。

○参上ハ麻韋能煩理坐也訓法。高津宮、天皇、大御哥
小麻韋久礼参来。万葉十八二十小麻為泥許之参出来
あや有例ニ依り。然るを韋を宇中云成て。参上を麻
宇傳多也云ハ。後ニ音便ニ搏し。言あり。今。万葉六
至ふまて正しく云ハ。ふ。参入乃みあり。十三
六。小参昇八十氏人乃云。○山川ハ山也川也あり。山
川カ加カを清スミて讀法。○動ハ登余美也訓法。万葉六
非ヒ加カを清スミて讀法。○動ハ登余美也訓法。万葉六
十七丁四。小例あり。又七丁十八。小大海之水底豊三立浪
十六丁三。小居名山響弥行水乃ありあり。ふて又六
之十一三。小山裳動響。左男庶者妻呼令響あり。見え動
四十。小山裳動響。左男庶者妻呼令響あり。見え動
三丁。小山裳動響。左男庶者妻呼令響あり。見え動
を登る。呂也訓る處あり。母あり。動ハ。あ。ろ。り。り。

びくあやあり。猶此言。下八千矛神、御哥み見ゆ。其一傳十
十二。小も云法し。○國土ハ山川ニ對りて云り。此二字
あは非。久。地と云なり。久。近都知也訓法。此二字
ハ久。近都知也訓法。下。小。天。詔。琴。拂。樹。而。地。動。鳴。也
も。あり。○震ハ由。理。伎。也。訓法。伎ハ。辭。書。紀。ニ。地。震。也
見え。れ。バ。布。流。也。母。訓。法。ま。れ。也。武。烈。卷。歌。小。始。陀。騰。
余。溺。那。為。我。與。釐。椽。魔。來。者。あり。也。あ。れ。バ。由。流。を。猶。古
言。あ。り。也。例。如。也。今。言。み。も。然。言。あり。ふ。て。此
所。を。書。紀。ハ。溟。渤。以。之。鼓。盪。山。岳。為。之。鳴。响。此。則。神。性
雄。健。使。之。然。也。書。也。了。り。○聞。驚。ハ。伎。と。於。杼。呂。迦。志

氏ヲ訓法し。伎を延て如志云ハ。例乃古言ハ。此言記
 中處々小見ゆ。見驚ヤ。又聞喜見喜ヤ。皆古
 語あり。○我那勢命ハ上ニ見ゆ。吾弟ヤ書
 記。○善心ハ字の随ふも訓法され。師の字流
 波斯伎心ヲ訓法し。又此次ニ汝心之清明
 阿加伎心ヲ訓法し。思ハれ。合セ。此も
 善心ヲバ善意ナリ。好意ヤ書キ。此ハ
 善心ヨリ。彼ヤハ別言ヤ聞ク。この字流波斯伎ハ
 書紀神代下卷小友善ヤ。此記ハ愛。善字の意ハ
 漢籍ノモ。古ヨリ。ハ。人の交乃睦ま。其由
 異心ありと云。○我國ハ高天原を詔ふ。其由

見。○奪万葉五十九。小有婆比豆。言見え。此
 此句。我國表奪年登。母富須爾許曾。訓法し。耳字を
 許曾。小何。訓む由ハ。首卷三葉。云。云。例ニ引
 ハ畏をれ。書紀神武卷小長髓彦。聞之。曰。夫天神子等
 所以來者。必將奪我國云。云。何。語の様よく似。り。
 ○御髮ハ美加美。訓法し。古書小み。美久志。訓を
 比。後乃。今も。云。云。此ハ。櫛。上。論。ひ。あ。ま。り。て
 上代の女。髪乃様ハ。師。弘。万葉註。小委。と見。え。り。然
 る。今。こ。小解。有。書紀。ハ。結髮。何。解。結
 大違。了。小似。り。故。猶考。小。於。凡。て。女。ハ。年長。て

髪あがらば上代より儀あり。飛鳥、淨御原宮御宇、十一年に詔ふ。自今以後男女悉結髪や。思ふに、上代に結や云ハ本と一ハあはれを挙て結て。其末ハ後子垂しりむむと。彼詔に結やあるは頭上は結縮し。髻や成を云なるは。髻やハ一ツ縮しと云。美豆良やハ異。さて同十三年ハ女年四十以上髪之結不結任意也やありて。又十五年に詔し。婦女垂髪于背猶如故意あるハ。又ハ上代より風の如くせよやあり。故ハ此十五年に詔以後の万葉乃奇も髪あがるあや。或多くよやあるハ。純本と結るや。末ハ垂あれば。

彼詔に違ふあやあり。さて此は解やあるはかの本を結する所を解あり。神功皇后の解髪やあるは是あり。訓て三山冠の形を。然るを或説し。此の解字を和氣やふありや。強説あり。書紀に結やあるハ。末ハ垂しりむむと。彼詔に結やあるは頭上は結縮し。髻や成を云なるは。髻やハ一ツ縮しと云。美豆良やハ異。さて同十三年ハ女年四十以上髪之結不結任意也やありて。又十五年に詔し。婦女垂髪于背猶如故意あるハ。又ハ上代より風の如くせよやあり。故ハ此十五年に詔以後の万葉乃奇も髪あがるあや。或多くよやあるハ。純本と結るや。末ハ垂あれば。

○古事記傳七

○三十五

宇^ウ字^ジ何^{ナニ}も^モ勾^カ玉^マする^ス状^カの^ノ妙^{タマ}ある^ルは^ハ美^{ホシ}て^シ譬^ヒや^キし^ムあり

此文^{コノ}は^ハ就^ツく^ク勾^カ玉^マする^ス名^ナを^ヲ曲^カ妙^{タマ}の^ノ義^カを^ヨ以^テて^シハ^ハ事^{コト}違^ヒふ^ル也^{ナリ}
其^{コノ}意^カ何^{ナニ}も^モハ^ハ漢^{カン}字^ジハ^ハ古^コ言^{ゴン}の^ノ意^カを^ヲ思^シふ^ル輩^{ハイ}ハ^ハ妙^{タマ}や^キハ^ハ書^シ文^{ブン}ハ^ハ曲^カ字^ジを^ヲ思^シひ^ルよ^シ也^{ナリ}
凡^{ソノ}て^ハ書^シ紀^キハ^ハ如^カ此^{コノ}ま^ニ人^{ヒト}惑^トふ^ル多^クし^ク也^{ナリ}
八^{ハチ}坂^カ瓊^{ジュウ}や^キ何^{ナニ}も^モ瑞^{スイ}八^{ハチ}坂^カ瓊^{ジュウ}や^キ何^{ナニ}も^モ美^ミ豆^{トウ}ハ^ハみ^ミぢ^ぢく^ク
瑞^{スイ}字^ジハ^ハ垂^シ仁^ニ卷^{マク}り^テハ^ハ裕^ヨの^ノ腹^ハハ^ハ八^{ハチ}尺^{シツ}瓊^{ジュウ}勾^カ玉^マの^ノ有^アし^ク
一^{イツ}二^ニの^ノ都^ツあり^ル百^{ヒャク}の^ノ假^カ字^ジハ^ハ富^{トモ}あり^ル也^{ナリ}
○美^ミ須^ス麻^マ流^{リュウ}ハ^ハ書^シ紀^キハ^ハ書^シ紀^キ
○御^ミ統^{トウ}や^キ書^シて^シ此^{コノ}云^フ美^ミ須^ス麻^マ流^{リュウ}ハ^ハ書^シ紀^キハ^ハ書^シ紀^キ

總^{ソウ}括^{カツ}之^ノ也^{ナリ}也^{ナリ}何^{ナニ}も^モ意^カあり^ル即^ツ須^ス夫^フ流^{リュウ}や^キ語^ゴ通^ツず^ル也^{ナリ}
志^シ婆^ハ流^{リュウ}
○千^チ入^ニ書^シ紀^キハ^ハ千^チ箭^{ゼン}や^キ書^シて^シ此^{コノ}云^フ

知能梨チノリや何れナニ和名抄ワナヒ。篋カネ箭ヤ竹タケ名也。和名乃ナニ也ナリあり。大
神宮式神寶料ニギハヤヒ少シ也。篋二千二百五十株イハハ見也ミヤス。かカれ
バ千チ篋入イリ乃意イあり。五百イハ入イリも准イ可ク也。知チ法ホウ。伊イハハ畧リョクく
千チや云イハ五百イハや云ハハ其量ホドあり。これ必カナラ千チや五百イハや入イリ
法ホウや非ヒ也。唯多タく入イリ由ユなり。○鞞ニギハ盛モル箭室ヤイや字書小
見也。書紀推古イハヒコ卷小。鞞此コノ云イハ由ユ岐キ和名ワナヒ同。記中御孫命御天
降段小。天石鞞アメノイハヒコや云イハも見也。孝徳紀タカウチノキ金鞞カナノイハヒコも見也。つり
大神宮式神寶中。小姫鞞コノメノイハヒコ二十四枚。長ナガ各二尺四寸。上ウヘ廣ヒロ
失刺ウシサシ口方二寸九分。以ヨリ檜ヒノ作ツク之ヲ。以ヨリ錦ニシ粘ネリ表ウラ以ヨリ緋ヒ帛ヒト。箭ヤ四百
着裏ウラ着ツク緒イト。四ヨ處トコロ並ナラ用ヒ紫草ムラサキ長ナガ各二尺。廣ヒロ一寸三分。箭ヤ四百
八十隻ヤチ。以ヨリ鳥羽トリノハ作ツク之ヲ。蒲鞞カサノイハヒコ二十枚。長ナガ各二尺。上ウヘ廣ヒロ四寸五分。下シモ
廣ヒロ四寸。以ヨリ檜ヒノ作ツク之ヲ。編アミ蒲カサ着ツク表ウラ。

以ヨリ鹿皮カ着ツク頂ウラ以ヨリ丹ニ畫エ裏ウラ着ツク緒イト。四ヨ處トコロ並ナラ用ヒ紫草ムラサキ長ナガ各二尺。廣ヒロ一寸。箭ヤ一千隻ヤチ。以ヨリ鳥羽トリノハ作ツク之ヲ。革カ鞞イハヒコ二
十四枚ヤチ。長ナガ各一尺八寸。上ウヘ廣ヒロ四寸五分。下シモ廣ヒロ三寸八分。以ヨリ
調布ツク粘ネリ之ヲ。塗ヌル黑漆クロシ着ツク緒イト。四ヨ處トコロ並ナラ用ヒ紫草ムラサキ長ナガ各二尺。
廣ヒロ一寸。箭ヤ七百六十八隻ヤチ。以ヨリ鷲羽シウノハ作ツク之ヲ。此コノ以ヨリ其製ツク詳サシ也。
儀ノリ式帳ノリも右ミダリの三種ミヤクサ鞞イハヒコ見也ミヤス。字鏡ジキョウもハ鞞イハヒコ也ナリ。奈ナ久ク比ヒ
比ヒ注ツク夜ヨ奈ナ久ク比ヒ。つて鞞イハヒコを作ツクるを編アミ也ナリ。云イハくも負オヒ觀ミ儀ノリ
式ノリ延喜式ニギハヤヒ。小鞞者コノイハヒコ鞞編氏ニギハヤヒ造ツク之ヲ也ナリ。見也ミヤス。姓氏錄シノジ小鞞編首コノイハヒコ
てハ姓シノも何れナニ。○負オヒ也ナリ。云イハくも附ツケ也ナリ。云イハくも負オヒハ主オホ也ナリ。負オヒあり。
附ツケハ側カタハラも添ツク附ツケる意イあり。此記ハ凡オホてか、法ホウや古
言コトを守ツクりて書ツク之ヲ。心ココロを好スく法ホウし。諸本モトも附ツケの上ウヘも比ヒ良
也ナリ。故コト延佳本ニギハヤヒも此四字無ナシ也ナリ。依ヨリ之ヲ又マタ師シの附ツケ五百入イハ
之ノ鞞イハヒコの六字ハ削キる法ホウもいハり。返マゼてよシ。

万葉三五十九 小梓弓鞞取負而又九 五丁 小見え廿九
丁小麻須良男能由伎等里於比氏抄 和名
近衛府兵衛府衛門府由介比乃豆加佐 何ハ
負云ハ 書由伎於比を約丸とる 称あり 今是由 伎ハ
伊都書紀伊都書紀 小稜威書 此云伊都何 稜
漢書威稜 乎鄰國注了 神靈之威 曰稜何 此ハ
此意か 加生 文選小稜威 あり 此ハ
伊知速乃伊知伊知 同言して 知波夜夫流の知も是なり
此等此 詞乃意ハ 冠辞考ふ 此ハやぶ 委く 見ゆふ 此
言ハ 例ハ 伊都ノ 男建伊都能 知和伎稜威之 噴讓あり
なり皆事 小云ふ 此ハ 物ふ 都ハ 清音小
て書紀も 同く 此字を 用ひ ぬれ 其餘も 皆清音の 假

字を 用ひ ぬれ バ濁るハ 非あり 祝詞式ハ 頭字を 書る
を訛 又嚴 字と 書る 伊豆混 了て 一小 意得る 也誤
なり此事上 ○竹鞞ハ 大神官式神寶中ハ 鞞二十四
枝以鹿皮縫之 胡粉塗以墨畫之 納檜 麻笥二合 徑一尺
六寸五分深 一尺四寸五分着緒 一用 紫草長 各一
尺七寸兵庫寮式 熊革一條 鞞料長 九寸牛革 一條鞞
廣二分 手料長 五寸見ゆ 天皇御射の 料なり 西官記
欲御射時 侍臣一人 候御座南方 奉御鞞張 御弓又持 御
矢あり 持統紀七年 親王以下 諸臣各備 儲る 兵器の
中ハ 鞞一枚 ありその 見ゆ大 大神宮儀式帳ハ 五
てはな 用ひ ぬれ 見ゆ
十鈴官地ハ 弓矢鞞音 不聞國見 え万 葉一 二
八小 大夫之鞞乃 音為奈利云 七丁 十六丁 小大夫乃手二

卷持在鞞之浦田乎 こは地名ふ云 かなづよあり師云鞞
は射るよ左臂小着る物として形ハ吉部秘訓抄に
見え着る様ハ古書小見ゆ也云 猶此物の云々谷川氏書紀註よも
委くはて此は何乃料と着る物ぞ也云 古歌なやふ
も鞞はみゑ音を云る哉思ふ哉此物ハ弓強の觸て
鳴る音を高かゝるを以て感 オ 以て感 オ 以て感 オ
かの鳴鐘 ナリカハラ なるを同 然るを師ハ杖をねる弓強を
あふありや云 然るは非也 逆さる 伊勢貞丈
を音 ハ 後よよく思ふ然 ハ 非也 或以爲鞞是避強之
具也 是本千和名抄 鞞字注者 而非也 夫強觸腕者 拙射
之一癖也 何有設其具乎 云 云 此物を作るを ハ 張

也云 ハ 續紀十八 ハ 其工人を鞞張 ハ 云 ハ 備後國
世羅郡 ハ 然郷名を見え ハ 和名抄 ハ 鞞字を止 ハ 毛也
應神卷 ハ 上古時俗号 ハ 鞞 ハ 謂 ハ 褒武多 ハ 也 ハ 傳 ハ の誤 ハ 也
其由ハ ハ 彼天皇の殿 ハ 又書紀 ハ 加良 ハ 也 ハ 訓
を付 ハ 柄字 ハ 思 ハ ひ ハ 可 ハ 也 ハ 竹 ハ の借字 ハ して書
紀の字の如く ハ 高の意 ハ して ハ 鳴音 ハ 此高き ハ なり ハ あり
抑鞞 ハ 音物の省 ハ 名 ハ あり ハ 物 ハ 此能 ハ を ハ 畧 ハ する ハ 作物
り ハ 類 ハ 又 ハ 竹鞞 ハ 高音物 ハ なり ハ 所 ハ 取佩 ハ 登理 ハ 漆
婆斯氏 ハ 訓 ハ 法 ハ 所 ハ 字 ハ 所 ハ 御佩 ハ 十拳 ハ 劔 ハ 上 ハ 見 ハ ゆ ハ なる ハ 所
字 ハ 格 ハ あり ハ 然 ハ 延 ハ 佳 ハ 非 ハ 書 ハ 紀 ハ なる ハ 臂 ハ 着
也 ハ 此 ハ 記 ハ なる ハ 處 ハ を ハ 云 ハ 祓 ハ 取佩 ハ 云 ハ 言 ハ 足

れり。書紀應神卷。負物。非。佩意。○弓。腹。書紀。
あは弓。彌。あ。神武。卷。小。皇。弓。彈。あ。字。書。小。弭。
波。抄。由。美。万。葉。十。三。二。十。小。梓。弓。腹。振。起。云。こ。ろ。水。
波。教。あり。又。十。一。二。十。二。梓。弓。末。之。腹。野。あ。よ。る。は。
振。山。を。未。通。女。子。之。袖。振。山。奈。良。里。末。之。あ。云。ふ。ま。で。は。
を。旧。衣。着。着。櫛。野。あ。よ。る。例。り。て。未。之。腹。野。云。名。所。あ。
序。も。て。腹。野。之。地名。は。有。は。き。い。あ。り。ぞ。や。聞。ゆ。あ。
れ。弓。末。小。腹。あ。称。と。る。處。の。有。し。故。よ。末。之。腹。あ。ハ。連。け。
ふ。り。り。又。三。三。十。小。大。夫。之。弓。上。振。起。射。都。流。矢。乎。七。
三。み。見。ゆ。此。等。よ。依。ら。ば。此。も。由。波。受。又。ハ。由。受。惠。あ。
丁。然。り。非。は。彼。を。も。上。を。ユ。ハ。ラ。あ。も。訓。法。し。義。○。振。立。万。葉。十。
訓。な。り。は。彼。を。も。ユ。ハ。ラ。あ。も。訓。法。し。義。○。振。立。万。葉。十。

九。十。四。小。梓。弓。須。惠。布。理。於。許。之。あ。も。あ。り。バ。あ。の。三。又。
十。三。な。の。振。起。を。も。如。此。も。訓。法。し。さ。れ。○。堅。庭。ハ。あ。
だ。堅。き。地。を。云。な。り。某。場。云。あ。き。ま。場。を。婆。あ。訓。む。も。
富。婆。あ。云。さ。り。バ。今。こ。れ。庭。も。○。向。股。和。名。抄。又。股。
俗。言。小。其。場。所。あ。云。小。同。し。き。あ。り。○。向。股。和。名。抄。又。股。
毛。こ。あ。り。私。記。又。兩。股。是。正。相。向。故。云。向。股。耳。あ。り。
祈。年。祭。祝。詞。又。手。肱。尔。水。沫。盡。垂。向。股。尔。泥。盡。寄。氏。見。
ゆ。此。語。廣。瀬。大。忌。祭。字。鏡。小。蹲。脛。腹。也。古。牟。良。又。牟。加。波。
支。拾。遺。集。物。名。み。り。行。膝。を。隠。し。て。向。脛。あ。よ。る。り。避。案。
久。也。あ。も。見。ゆ。何。し。も。古。言。な。り。○。踏。那。豆。美。倭。建。命。此。
段。哥。小。阿。佐。士。怒。波。良。許。斯。那。豆。牟。淺。篠。原。腰。を。云。こ。又。

三コトノ三ハカセルトツカツルギヲユヒワタシテ三キダニウチ
佐之男命所佩十拳劔打折三

段而。奴那登母母由良爾。此八字以

音下振滌天之真名井而。佐賀アメノマナキニワリス、ギテサガ

美爾迦美而。自佐下六字於吹

棄氣吹之狹霧所成神御名多ウツルイブキノサギリニナリマセルカミノミナハ

紀理毘賣命。此神名亦御名謂キリビメノミコト

奥津嶋比賣命。次市寸嶋上比シマヒメノミコト、マラスツギニイチキシマ

賣命。亦御名謂狹依毘賣命。次メノミコトマタノミナハサヨリビメノミコト、マラスツギニ

多岐都比賣命。三柱。此神速須タギツツヒメノミコト

佐之男命。乞度天照大御神所サノヲノミコトアマテラスオホミカミノヒダリノ

三、ツラニマカセルヤサカノミカタマノイホツノ
 纏左御美豆良八尺勾璫之五
三スマルノタマヲコヒワタシテヌナト
 百津之美須麻流珠而奴那登
モモユラニアメノナキニフリス、ギ
 母母由良爾振滌天之眞名井
テサガニナミテフキウツルイ
 而佐賀美邇迦美而於吹棄氣
ブキノサギリニナリマセルカミノミナハマサカア
 吹之狹霧所成神御名正勝吾

カツカチハヤビアメノオシホミノミコトマタミ
 勝勝速日天之忍穗耳命亦乞
ギリノミ、ツラニマカセルタマヲコヒワタシテサ
 度所纏右御美豆良之珠而佐
ガミニカミテフキウツルイブキノ
 賀美邇迦美而於吹棄氣吹之
サギリニナリマセルカミノミナハアメノホヒノ
 狹霧所成神御名天之菩卑能
ミコト
 命自菩下三亦乞度所纏御鬘
字以音

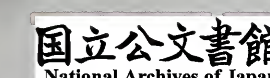
コヒワタシテ。サガミニカミテ。フキ
 之珠而佐賀美邇迦美而於吹
ウツルイブキノ。サギリニナリマセルカミノミナハアマ
 棄氣吹之狹霧所成神御名天
ツヒコネノミコトマタヒダリノミテニマカセルタ
 津日子根命又乞度所纏左御
マヲコヒワタシテ。サガミニカミテ。フ
 手之珠而佐賀美邇迦美而於
キウツルイブキノ。サギリニナリマセルカミノミナハ
 吹棄氣吹之狹霧所成神御名。

イクツヒコネノミコトマタミギリノミテニマカセ
 活津日子根命亦乞度所纏右
ルタマヲコヒワタシテ。サガミニカミテ
 御手之珠而佐賀美邇迦美而。
フキウツルイブキノ。サギリニナリマセルカミノミ
 於吹棄氣吹之狹霧所成神御
ナハクマヌクヌビノミコト
 名熊野久須毘命。并五柱。自久
下三字以音

オシクウケフ
 各ハ宇氣布系て心得法一。あづひや云むが如し。
カケ
 源氏物語若菜上よ。あのおのくまきり契り
カケ
 みきりまをれバ云く。くも互よ乃意なり。○天安河

ハ安下小之字を加ふるも書記阿米能夜須能迦波也
訓法一天上は河なり名義ハ古語拾遺小天八湍
河原也あはバ弥瀬之河也書紀ハ天八十河中須
世世曾也皆通ふ音なり神代の天上の故事を云る
皆此河名を云て他河名ハ見えざれば是ハ一の河名
ハあはでたふ流のいとくはちも万葉十三丁ハ天漢
河なり大きき河を云はるは安麻泥良須可未御代欲里
安之川原乃十八三丁又安麻泥良須可未御代欲里
夜洲能河波奈加尔敝太豆牟牟可比太知ハはセ夕奇
事と思ふ也十五丁又天漢安渡也ハはち九て
小賦ハ皆社々ハ奇なり其ハ漢國ハ云云ハ其ハ棚機
を御國也效て彼集ト奇あり多クハ其ハ其ハ棚機
女又安河ハ名ハ此方ハ古ハ近江國ハ安河也
傳を取て引合せしものなり

云あり天武紀より見ゆそは天上なる名を
移せし又彼ハ郡名ト出て別り此時ハ成
坐る神名の子根も彼國ハ地名ハあり○中置ハ中
間ハ隔ちしなり万葉十一八丁又紅之欄引道乎中置
而云一云須蘇衝河乎○所佩ハ上の例ハ依て御を
添て美波加世流也訓法し○乞度ハ乞取也云セガ如
一即書紀ハは索取乞取也書記度也ハ今は人トヤ
ふとのみ云也古ハ此方取取も云一なり○三段段
を伎陀也訓ハ和名抄ハ筑前國鞍手郡新分ル比岐多
也此分字を岐多也云ト豊後大分郡も本は
たぢきふなり景行紀ハ碩田也あそそ於保岐陀也訓



注あり。はて三段は折しきり故。三柱神生坐るな
る處。○奴那登母。由良爾書紀。瓊響瑤々。書紀
て。此事の前云。はて此語疑。きこやあり。此次
小須佐之男命。天照大御神の玉を乞度て。滌き
處。如此云る。ハ。かの玉。就なる。然此ハ玉。非次。
劍を云。處なる。ふ。如此ある。は如何ぞや。次ある。や。上下
此文の同き故。まがうて。此も云傳。子。よ。や。し
飾。玉の音。や。も。思。や。そ。物。遠。又。振。滌。き。か
あ。ふ。よ。り。て。御。手。ふ。纏。せ。玉。の。操。て。鳴。音。や。も。い。は。む
う。そ。然。ら。バ。次。ある。と。別。須。佐。之。男。命。の。御。手。ま
う。せ。玉。の。音。や。は。同。ト。語。乃。此。彼。別。こ。や。な。る。滌。き。ま
は。く。も。何。な。と。や。り。み。か。く。小。此。ハ。誤。見。ゆ。書。紀

一書に此語あるは。須佐之男命の玉を滌ぎ。方
婦方のみありて。天照大御神の方。は見え。○天
之真名井。書紀一書に。天滌名井。や。も。あ。る。を。合。せ。て。思
あ。真滌名井。を。約。し。奴。那。を。切。て。名。も。て。真。ハ。美。稱。
真水を云。な。や。云。る。説。滌。ハ。凡。て。水。の。湛。し。る。所。を。云。沼。
ハ。例。の。い。や。り。し。し。同。名。ハ。借。字。も。て。之。な。り。之。を。那。云。され。バ。此。ハ。寺。ノ
井。を。美。て。云。る。稱。も。て。一。乃。井。れ。名。ハ。非。父。故。書。紀。ハ
掘。天。真。名。井。三。處。也。も。有。ぞ。か。し。又。此。井。ハ。即。安。河。瀬。の
中。も。て。井。也。云。は。き。所。を。指。て。云。る。も。て。別。尋。常。云。井
あり。ハ。非。比。書。紀。ハ。此。井。を。云。る。傳。ハ。河。を。云。ハ。此
河。を。云。る。傳。ハ。此。井。を。云。る。も。此

故^コ始^シ中^ニ置^テ天^ノ安^ヲ河^ヲ云^ヒおき^テ今^コ此^ニ如^ク言^フハ別
又^ニ非^ズ依^テ明^カきし^レ元^テ古^ハ泉^ニま^レ川^ニ可^ク用^ス
水^ニ汲^ル處^ヲ井^ヲ云^ヒは^テ丹^後國^丹波^郡比^沼麻^奈為^キ
神^社出^雲國^意宇^郡真^名井^神社^何り^官張^見ゆ[○]佐^賀
賀^美云^ク書^紀結^然咀^嚼此^云佐^我弥^尔加^武何^り
玉^篇結^齧堅^声注^セり^かハ^バ覺^齧を^約て^佐賀^が
美^少云^ハなり^志加^を切^バ佐^堅物^を齧^免バ^口の^覺謂^ハ
なり[○]吹^棄云^ク書^紀吹^棄氣^噴之^狭霧^此云^浮枳^干
都^屢伊^浮岐^能佐^擬理^何々^依て^訓法^し棄^を宇^都
流^言る^例ハ^八千^矛神^御哥^見ゆ[○]氣^吹ハ^息吹^ふ

伊^ノ息^{なり}大^後辞^小氣^吹戸^坐須^氣吹^戸主^止云^神
根^國底^之國^尔氣^吹放^氏牟^式近^江國^坂田^郡美^濃國
不^破郡^な伊^夫伎^神社^申れ^も何^り○^狭霧^狭ハ
真^意同^意の^言なり^佐牡^鹿を^真男^鹿也^も云^るよ^て知^ル
又^佐夜^中ハ^真夜^中佐^衣ハ^真衣^也云^ハ同^ト也^此餘^也
其^皆同^ト又^地名^ハ佐^檜前^也云^ハ真^熊野^{なり}云^ハ
通^ひて^聞ゆ^るを^其の^真熊^野を^御熊^野也^も云^て真^熊
御^也通^すに^大後^詞朝^之御^霧夕^之御^霧也^{あり}
を^以て^狭霧^ハ真^霧なり^也哉^知法^しこ^そ息^を霧^也
云^ふ例^ハ万^葉五^丁小^大野^山紀^利多^知和^多流^和何^那

宜久於伎蘇乃可是尔紀利多知和多流於伎ハ十五丁
 君之由久海辺乃夜村尔奇里多々婆安我多知奈氣
 久伊伎等之理麻勢書記雄畧卷二猪廠多有云呼吸
 氣息似於朝霧アサギリ乃也何り○多紀理毘賣命書記の田
 心姫コリヒメ當アタ多紀タキ紀キ也ヤ許コト一書小田霧姫命タキリヒメハあり
 何て亦御名は下文ニ此神ハ甕形之奥津宮ニ坐ヤ何
 べき此由なるべし式ニ近江國蒲生郡奥津嶋神社あ
 三ミ代実録是も此神也○市寸島比賣命式ニ安藝
 國佐伯郡伊都伎島神社イデツキシマ三代実録も見是も此神な
 るべし纂疏サンシなるべし然シカあり○多岐都比賣命右三柱

此御名義ミナノコロ多岐理タキリも多岐都タキツも河の早瀬ハヤセ乃狀サマを云
 言コトなるば安河ヤノカニ依ヨリ多岐御名タキミナも初ハツメの奥津島比
 賣ウツメを亦御名ミナなり例タトヘもよらば次ツギも狹依毘賣命サヨリヒメ亦御
 名市寸島比賣命イチキニシメなるべし此事下ふ狹依サヨリハ真マコト宜
 此意コノコトの称名ナメ市寸イチキニハシ也ヤ二柱ニハシラの御名ミナ乃例タトヘ
 類タテマハハ也ヤ多紀理タキリ也ヤ多岐都タキツ也ヤ全意モトメを言コトも同ドウきを二
 柱ハシラの御名ミナ也ヤ也ヤ云疑ウタガハシも有アルぬハ也ヤ
 次の五男神此御名の例も皆然シカなるべ疑ウタガハシもハ也ヤ
 又多岐理タキリの岐キも多岐都タキツ也ヤ同ドウ濁ナグルる例タトヘもハ也ヤ
 書シヤクを合アヒせて思オモふ別意ワカあり也ヤ也ヤ田タ心ココロ也ヤ也ヤ
 云コトふ意ココロなるべし也ヤ也ヤ也ヤ三神サンカミ乃御名ミナを心の動靜ウツクシを以

て謏ふなむらひささるる由なり。田心姫や書ふさして此三
文字よめむらひささるるよやあをささるる。柱の御事書紀の諸傳を考るる次第を異ふ。或ハ瀛
津嶋姫別ハ有て市杵島姫無く。又ハ瀛津嶋姫亦名市
杵島姫なり。多紀理毘賣の亦名奥津島比賣や
云説ハ見とび。又狹依毘賣申次名も。凡て見とびる
なり。又彼紀ハ市杵島姫遠瀛ハ坐田心姫中瀛ハ坐
やあとも。此記や異なり。故思ふ。此記も多紀理毘賣
や市寸嶋比賣やを置替て。市寸島比賣命亦御名奥津
嶋比賣命。次多紀理毘賣命亦御名狹依毘賣命云。此
は、やきは彼諸傳皆合なり。さしや此記も後ハ誤

てまがさるるものやほ見とび元より傳の異なり
ささるる。○正勝云く正勝ハ書紀ハ正哉や書るや
合せて。此も彼を麻佐加や訓し。我を加や訓ハ固論
なり。書紀ハ二サヤや云訓を勝を加や訓む由ハ。此記
ハ正勝山津見やある神を。書紀ハ正勝山祇や書る。
此勝を彼此相照て加や訓し。かの訓注ハ正勝此云
家本ハ菟字なり。や云云。此同例あり。はて言の意ハ書
紀乃字ハ如く。正ハ我や云むが如く。又此記ハ
正ハ勝や云意。ては。あむらひささるる。麻佐加都
や訓し。ささるる。書紀や合せて。前の義をよむ。
吾勝ハ。下文ハ自我勝云。而やある。意なり。書紀一書ハ。

○古事記傳七

○五十三

便化生男矣。則稱之曰正哉吾勝。故因名之曰云々也。見ゆ勝速日ハ加知波夜備ヤ訓法。古來加都乃波言れありをえ。下文於勝佐備云々也。同きり。知ぬものぞ。佐備の云々。彼処速ハ疾く烈く猛き意日ハ意あり。委く云を合せ見よ。速ハ疾く烈く猛き意日ハ夫流ヤも活て其状を云辞めて速日ハ即知波夜夫流此波夜夫流ヤ同言なり。上の獲速日。又獲速日。あや皆同。日字就てり。強言なり。忍穂耳ハ大。耳もて美称あり。忍の大なるゆへ上の忍許呂別の所傳五の云。穂も大あり。大の意を省て富ののみ云る例多し。中みし書紀ハ三穂之碕ヤある地名を以

記ハ御大之前ヤ書るなり。此ハよく合す。御次ハ三御代の大御名ハみな穂穂を以て稱奉す。は其一例ヤ。此御名を字の如く穂穂ヤせむ。水穂國を所看せ。彼三御代の御名ハ天降坐て後。此又。穂穂ハ依るを以尊ハ此土ハ降坐るの御趣異なり。此書紀ハ齋庭之穂の詔命也。述々藝命の御段ハ係りし。思ふは次なる三御代の耳ハ尊稱御名乃事ハ彼処。下ハ布帝耳神ヤ云あり。又神武天皇なり。耳字ハもや。耳ヤ申れ多く。其外の人。名も多のの御子。是。耳ヤ申れ多く。其外の人。名も多の。皆同。書紀一書ハ忍穂根尊。忍骨ヤ。也。穂ハ右ハ同く根も耳ヤ云ガ如き尊稱もて。某根ヤ云例ハ殊多し。上の阿夜訶志古泥神の所傳

の四十
五葉
段あり神大根王神大根王 開化天皇の御孫なりを書紀よりは神骨カムホネあり
此例よて忍穂根オシホネの忍大根オシホネなるを知らず又穂耳ホミミ
の大耳オホミミありと云ふもいふ明アキラをしがかりは書紀神
代下巻より勝速日尊カチハヤヒノミコト見天大耳尊アメノオホミミノミコトも有を以て思ひ
定むべし。こは忍オシを畧リョクて天之穂耳命アメノホミミノミコト云云は
同ト又尊見ミコトミハ尊み親みて云ふなり尊之子ミコトノコ
や云ふハ非なりて此神の御名舊説皆誤なり他の例
例をよく考合せて古の意言をば尋ぬべきものぞ
て耳ミミよ尊称の意ハ美ハ比ヒ又通ひてかの産靈ムスヒなる
此靈ミコトありを産靈の意ハ傳三ウツサ靈ミコトと云重オモシなりものな
也開化天皇の大御名大思オホヒシと命ミコトや申し是あり此を書

紀よハ太日フヒヒと尊ミコトありて垂仁卷よ太耳オホミミ云人名も
あを以て日ヒと云耳ミミを同じきと云を知らず又明宮
段なる前津見マエツミてふ人名を書紀よは前津耳マエツミミあり又
垣宮段カキノミヤノミヤ陶津耳タウツミミありと云旧事紀よは前津耳マエツミミあり又
は大陶オホタウ祇シ云ふし様ありと云を以て耳ミミ云ハ
美ミを二重ニヘなりと云て見ゆ云ハ其を一畧リョクけるものな
はゆや地知チし神名人名カミナリノナ某見ナニミ云云が多きハ皆是
めて水垣宮段ミヅカキノミヤノミヤ岐比佐都美ササヒツミ書紀よ武弟タケノミコ淳祇ツツミなるあ
は名の都美ツミも津耳ツミミの畧なり是を以て見ゆは山津見
も同ト津耳ツミミなりと云ふは綿津見ワタツミ大加牟豆美オホカムツミなり
又月夜見ツキヨミの見も耳ミミなりと云ふはちて耳ミミ日ヒと云通ハ
し云例よてかの津見ツミと津日ツツヒと通ツすこと云禍津日神

庭高津日神ニハタカツヒノカミなり。又其須美ナニスミ云名也。其須
毘ヒ云々通也。次見也。右の名也。考合
勢て耳の靈ミミノコトを所也。山城國風
土記。宇治郡木幡社ミナト名天忍穗根尊。式。彼郡許波
式。豊前國田川郡忍骨神社ニシノボネノカミ。統後紀六。此社の七左
國香美郡天忍穗別神社トクミ。別耳根の類。伊勢
外宮。忍穗井云井の名も何れ。○是より下何れも
八尺勾穂之云々。奴那登母云々。云語なき。上
讓て文を畧コトせり。○天之菩單能命アマノフツシノノミコト。能字を添ミせり。
此も本右の穗耳ホミミ也。同言して。菩ハ大なり。單ハ美也。通

ひて。此の美ハ右云ふ耳の畧なり。さて志の菩單も
穗耳ホミミ也。同くば吾勝命也。御兄弟御名の同きハ如何也
云。上の三女神。中の多紀理也。多岐都も同意言ふ
は如く。又書紀。次の熊野須毘命を忍踏命也。何
るは忍穗耳也。正しく同言する例あり。かゝれば御兄
弟カラとられ御名も。いさしめを以分奉し
ものぞ。延喜六年日本紀。竟冥得天穗日命。矢田部公望。
津儒波。屢濃。儀。阿磨能。褒臂。俄。弥農。美。鉄野。敷。耶。佐。賀。瑪。迺。伊。朋。
恭。登。胡。楚。春。鷄。神名帳。山城國宇治郡。因幡國高草郡。出
雲國能義郡。天穗日命神社。何れ。出雲風土記。
天乃夫比命也。あらし。此神なり。○御鬘ミカツラハ。舊印本

又右御美豆良や何をも延佳が御迦豆良や改免也
ハ宜し但上文又御美豆良ハ假字ニ御鬘ハ正字ニ書
也黄泉段此も正しく上を羨する所なりハ上文の隨
み書法きこやあり故今又改免也豆良二字舊ニ依む
るハ迦字一を誤りしハ非以上文やのりて惣て
誤りしものなりハ字小揃ふはあらん又一本
ニ右御手や作ふもむがこや
なり其ハ下ニあはななり
○天津日子根命名義ハ
なかり後や解し根ハ尊称上ニ云るが如し伊勢國衆
名郡多度神社ハ此神なりやぞ姓氏録衆名首天津彦
之後也やあり又此神近江國ニ由何るやハ下文ニ
備生稻寸の祖や見え姓氏録ニ犬上縣主天津彦根命
之後也や何るやの國乃地名なり又伊邪河官
段なり天御影神の下考ふは傳二十ニの六十一の葉

○活津日子根命元て上代神又人名も又さして
活やい言多々見ゆ地名又生國あり津國出雲國造
神賀詞ニ今日能生日能足日やいハ神祇官坐八神中
もも生産日足産日や並び座摩御巫祭神中も生井
神福井神やも並はり是を以て思ふに活杵神より起
て生活の字れ意もてや賀言なるを以て美称也
なり近江國備生郡彦根神社や○熊野久須毘命
熊野ハ地名なり出雲國意宇郡の熊野なりは
事ハ傳九の四十久須毘ハ久志須毘を約してなり
二葉又委と云る久須毘ハ久志須毘を約してなり
を切らばその久志ハ奇靈なり書紀又奇魂此云俱斯
須なり美拖摩や奇縮田姫

まゝ奇靈なごあり。ちて続紀廿七久須之久奇事乎
云々也。其須毘之例を思ふ。須毘の書紀は熊野大
隅命也。忍隅命也。有て隅命同。なご須美の例ハ
水垣宮段。飯肩巢見命。伊邪河宮段。比古由牟須美
命。あごも何りて。其産巢日神也。いふ巢日也。通ひて。美
は耳の畧也。忍德耳命の所云云るがご也。此
御名書紀は熊野忍踏命也。何り式は出雲國意宇
郡志保美神社あるは。此忍の意を畧ける神号あるは
し。○并五柱。此三字諸本皆大字もて訓注の下は何り。
今前後を考ふ。此例みを細注にかきり。又伊豆能賣

神多岐都比賣命あごの下は註せる。皆
訓注の上はあり。故今ハ例の随は書也。

於^コ是^ニ天^ア照^テ大^{ラス}御^ス神^オ告^ホ速^ミ須^カ佐^ミ之^ハ
男^ノ命^リ是^ハ後^ク所^コ生^ノ五^ツ柱^ハ男^ノ子^ハ者^モ物^ノ
實^ニ因^テ我^ガ物^ノ所^ニ成^リ故^ニ自^ラ吾^ガ子^ニ也^ハ先^ニ
所^ニ生^ル之^ハ三^ツ柱^ハ女^ノ子^ハ者^モ物^ノ實^ニ因^テ汝^ガ

ヨリテナリマセリカレスナハチミテシノミコナリカクノリワケタニヒ
物所成故乃汝子也如此詔別

也。

是後云々。こは是也。軽く讀切はし。是後也。連讀はく。
は。是也。ハ。五男三女を惣て指御言たれ。バ。あり。○所生
ハ。阿礼麻世流也。訓はし。阿礼坐て。よ。中卷。檀原
朝段。見え。り。彼處。傳二十。ハ。委と云はし。して。此
の御言ハ。汝所生吾所生也。あ。は。き。さ。や。な。ふ。然ハ
あ。ら。て。後。先。也。何。る。也。故。あり。ま。紀。書。紀。の。旨。ハ。

素戔嗚尊の御言よ。如吾所生是女者云々。若是男者云
云。也。日神所生三女神云々。素戔嗚尊所生之兒皆已
男矣。也。を。何。り。て。三女神ハ。天照大御神の生坐る御子。
五男神ハ。須佐之男命の生坐る御子也。本より分ま
り。然。る。よ。此記の旨ハ。誓。れ。間。一。連。よ。生。坐。て。三。女。五
男。共。よ。大御神也。須佐之男命也。の御子よ。て。此ハ。大御
神の御子。此ハ。須佐之男命の御子也。云。分。ハ。本。あ。り。
此の詔よ。下。先。後。を。以。て。詔。ふ。ハ。此。故。な。り。さ。り。此。事
下。よ。を。次。り。い。や。見。は。し。し。て。後。よ。生。坐。る。方。を。先。詔
ひ。先。よ。生。坐。る。方。を。次。よ。詔。ふ。ハ。物。実。の。尊。卑。を。以。て。な

了。御自詔御言なす。如。此。○男子女子ハ。比古美古
比賣美古。御神の尊。知。比古美古ハ。子。言。重。似
表多。夜賣。比古賀。比賣賀。書紀孝元卷。生。二
男一女。ま。垂仁。卷。生。三男。これ男女を然訓る
依。○物實ハ。毛能邪泥。訓。書紀ハ。物根
あり。佐。泥。多。泥。其物も名と通す。後世も
人の母を云ふは某腹父を云ふは某種。云。本草。種
子も同じ。此も其意なり。谷川氏。五男神ハ。物實日神
須佐之男。命ハ。母の如。云。ハ。日神ハ。父の如。書
紀。崇神。卷。倭國。之物。實云。物。實。此。望。能。志。品。あ
別。事。なり。祝詞。云。云。礼。代。云。云。今。商。人。の。志。あ
よ。の。云。云。ハ。此。実。なり。宝。基。本。記。富。物。代。云。云。

見ゆ。○我物ハ。彼美須麻流珠を詔あなり。○自吾子
也。この自ハ。下文。自我勝。ある。自。同。ド。か。あ
説あり。傳ハの。○汝物ハ。十拳劔なり。○詔別賜ハ。五
男三女。渾。一。大御神。須佐之男。命。の御子。て。
本ハ。何。何。の御子。云。別ハ。無。今。始。て。物。實
を。尋。て。如。此。別。此。記。の。旨。て。書。紀。
異。猶。下。文。も。其。由。見。え。詔。別。云。詔。ハ。中。卷
明。宮。段。ハ。或。人。書。紀。ハ。更。云。此。記。も。
佐。之。男。命。の。成。三。女。ハ。大。御。神。の。成。五。男。ハ。須
佐。之。男。命。の。成。正。勝。吾。勝。申。御。名。も。須。佐。之。男。命。依
別。書。紀。の。旨。ハ。吹。成。主。就。其。御。子。別。

此の記の旨ハ一誓の間に主成す故又一つ
渾々御名の吹成り主成す故又一つ
勝て御名ハ吹成り主成す故又一つ
又或人此誓ハ一吹成り主成す故又一つ
と東なるも大御神も諸共又宇氣比賜ハ如何
答を以て此事後世の心を以て見せバ疑ハ
上代ハ如是類の誓ハ凡て其疑多人を疑
人共皇嗣を主定事有む故日神も共小誓
誓ハ全皇嗣を主定事有む故日神も共小誓
を以て假小種ハ相を現ハ示次佛經乃事小異
ら凡て神の御命を疑ひきり本より眞実なれ
御神の須佐之男命を疑ひきり本より眞実なれ
は此誓天津日嗣所知者以迄も御子の生坐む
を豫又いづり知者以迄も御子の生坐む
也申しも御心須佐之男命の誰申しも御子の生坐む
て大御神の御心須佐之男命の誰申しも御子の生坐む
や住此御誓皇太子の生坐む其ハ深き所由
ゆりて本より然あは定むと御子の生坐む其ハ深き所由
神の御心須佐之男命の誰申しも御子の生坐む其ハ深き所由

佛了物ハ異なるもの也又或説三女五男ハ此
時大御神須佐之男命御交合坐て生坐む御
子より又須佐之男命御交合坐て生坐む御
なり也云ハ皆據し何事必夫婦交合されバ
信成ぬ物也思ハ神道乃奇靈を思ハて尋常の理
又迷子ハ又三女ハ天照大御神の心化して無形
の神五男は須佐之男命の身化して有形の神なり
云も例の語り分なり凡て心化身なり云も無
名目を設けて神分なり凡て心化身なり云も無
其證後世の私事此三女を無形申以然云ヤ
され大國主神の多紀理毘賣命又娶坐る事ハ
をバ如何ヤセむ又五男神の中し事跡ハ傳は
ぬも何ヤセむ又五男神の中し事跡ハ傳は
事を云る世々又さまじれ避説おちし

故其先所生之神多紀理毘賣

命者坐宵形之奥津宮。次市寸
嶋比賣命者坐宵形之中津宮。
次田寸津比賣命者坐宵形之
邊津宮。此三柱神者宵形君等
之以伊都久三前大神者也。

先^{リキニ}の次^{ツギ}の二女神^{ニメノミコト}は對^ツりて云^{ハク}は非^ヒ次^{ツギ}後^{ノチ}所^ニ生^レ五^ツ柱^ノは
對^ツりて三^ニ女神^ヲを總^ス云^フなり。神^モも同^シ也。○宵^{ムナカク}形^ハは和^ニ名^{カク}抄^リ
に筑^ム前^ノ國^ニ宗^ノ像^ヲ加^フ多^ク郡^ノ水^ヲをり。名^ノ義^ハハ彼^ノ國^ノ風^ノ土^ノ記^ニに
宗^ノ像^ハ大神^自天^降居^テ崎^ノ門^ノ山^ノ之^時以^テ青^ヲ麩^ヲ玉^ヲ置^キ奥^ニ宮^ノ之^表以^テ此^ヲ
以^テ八^ノ尺^ノ紫^ヲ麩^ヲ玉^ヲ置^キ中^ニ宮^ノ之^表以^テ八^ノ咫^ノ鏡^ヲ置^キ邊^ニ宮^ノ之^表以^テ此^ヲ
三^ニ表^ヲ成^シ神^ノ體^ノ之^形納^メ置^キ三^ニ宮^ノ即^チ隱^レ之^因曰^ク身^ノ形^郡後^ノ人^改
曰^ク宗^ノ像^ハあり。○奥^ニ津^ノ宮^ノ書^紀にハ市^ノ杵^ノ島^ノ姫^ノ命^ハ是^レ居^ル于^テ
遠^ク瀛^ノ者^也也。此^ノ記^ハ違^フり。彼^ノ社^ニ傳^ルる説^ハ此^ノ
記^ノ如^シ。此^ノ處^ハ今^ハ奥^ノ嶋^ノ云^フ島^ノとて大^ノ嶋^ノノ西^ノ北^ノ
四^ノ十^ノ八^ノ里^也。或^ハ三^ノ十^ノ里^也。五^ノ十^ノ餘^ノ里^也。乃^チの^レ又^ハ恩^ノ賀^ガ

敷云て。田島より半里許り。後深草天皇建
長年中。大官司長氏の時。神の告より。田島遷し
奉る。云傳ぬ。昔大官司の田島に居住より。天正
年中。又滅亡びて。其後。残り。三所の社人
合せて。十三人なり。其内。十一人。田島の社職。其
内。三家ハ。大官司の子孫。深田氏。二家。嶺氏。一家。あ
る。なり。十三人の内。二人。大島に住。其内。一
人。ハ。中津宮。一人。ハ。澳津宮の社人なり。云云。○胃形
君。姓氏録。右京。宗形朝臣。大神朝臣。同祖。吾田片隅命。
之後也。大神朝臣ハ。素佐能雄命。六。又。河内國。宗形君。大
國主命。六世孫。吾田片隅命。之後也。見ゆ。も。君の加
婆。祢。な。め。し。天武紀。十三年十一月戊申朔。胸方君
賜。姓。曰。朝臣。云。あり。さて。此。三神を。此。氏。人の。以。祭。所以
は。舊。事。紀。を。考。る。よ。彼。書。ハ。取。足。り。ぬ。也。此。段。断。り。
取。き。由。あり。首。卷。断。り。

大己貴命。即。大國主。宗像。奥津嶋。坐。神田心姫命。娶。味
鉏高彦根神。を生。又。边津宮。坐。高津姫神。娶。都味齒
八重事代主神。を生。賜。此。事代主神。化為。八尋熊罴。通
三嶋溝。杭。女。活玉依姫。生。天日方奇日方命。此。神の五世
孫。阿田賀田須命。なり。の。世。孫。吾田片隅。ハ。大國主。神
異。あり。又。この。活玉依姫。又。通。ひ。し。り。故。事。ハ。此。記
姓氏録。な。り。は。大國主。の。事。代。主。の。事。代。主。の。傳。記
崇。神。段。又。見。ゆ。と。れ。事。代。主。の。事。代。主。の。傳。記
正。書。紀。神。代。卷。も。又。曰。事。代。主。神。化。為。八尋熊罴。通。三
島。溝。織。姫。而。生。か。れ。バ。此。边津宮。坐。神。事。代。主。命。の。御
母。も。て。此。姓。の。遠。祖。母。神。坐。せ。ば。な。り。し。此。記。ハ。
娶。坐。胃。形。奥津宮。神。多。紀。理。毘。賣。命。生。子。阿。遲。鉏。高。日。子
根。神。亦。娶。神。屋。楯。比。賣。命。生。子。事。代。主。神。云。あ。り。云。云。此。

は、旧事紀の趣を、一の傳なり。其、う、奥津宮に坐す神に娶て生し。阿遲鉏高日子根ハ、大御神に申ひ。此、大御神を、同祖の賀茂朝臣の奉祭は、この姓に録し見ゆ。又、大神朝臣を同祖にして、大三輪、大神を奉祭す。是、ら、も、か、く、由、何、る、こ、や、り、或、説、は、此、大國主神の多紀理毘賣多岐都比賣に娶坐す。云、こ、や、を信ひ、て、こ、は、其、齋女を娶るなり。云、ハ、さ、り、由、な、き私に、妄説なり。無形の神ぞ、な、げ、云、後、世、の、謬説を、守、り、て、か、く、ふ、あ、さ、て、宗形朝臣鳥麻呂、て、ふ、人、宗形、郡、大領、も、て、宗形神主、と、し、て、續紀十十三、見、え、る、こ、や、ハ、卷、見、ゆ、て、然、は、例、な、り、し、を、延、暦、十、九、年、十、二、月、勅、し、彼、郡、大領、を、し、て、此、神主を兼帶る、こ、や、を、停、あ、し、し、こ、や、又、此、神主の任、六、年、小、限、了、て、相、替、る、こ、や、な、げ、後、紀、見、ゆ、り、○、三、前、大、神、神、名、帳、に、筑、前、國、宗、像、郡、宗

像、神社三座、並、大、名、神、也、あり、此、神の御事、書紀應神、卷、雄、略、卷、な、げ、し、し、出、又、履、中、卷、に、於、筑、紫、所、居、三、神、也、あり、是、あり、三代實録十七、貞觀十二年二月、奉幣告文、大、帶、日、姫、の、新、羅、を、降、伏、賜、時、に、此、大、神、相、共、に、力、を、加、る、賜、ひ、し、由、あり、此、事、此、記、又、書、紀、に、は、見、あ、げ、さ、し、式、に、大、和、國、城、上、郡、宗、像、神、社、三、座、類、聚、三、代、格、に、宗、像、神、坐、に、尾、張、國、中、嶋、郡、宗、形、神、社、下、野、國、寒、川、郡、曾、形、神、社、伯、耆、國、會、見、郡、曾、形、神、社、備、前、國、赤、坂、郡、鴨、神、社、宗、形、神、社、津、高、郡、鴨、神、社、宗、形、神、社、鴨、神、社、の、此、神、に、由、縁、あり、又、三代實録二、太政大臣、藤原、良、の、東、京、一、條、第、二、此、三

神社有て正二位を授奉

アノミコトノミコトヲ見スル

故此後所生五柱子之中天菩

比命之子建比良鳥命此出雲國造无

邪志國造上菟上國造下菟上

國造伊自牟國造津嶋縣直遠

江國造等次天津日子根命者

之祖也祖也

凡川内國造額田部湯坐連木

國造倭田中直山代國造馬來

田國造道尻岐閉國造周芳國

造倭淹知造高市縣主蒲生稻

寸三枝部造

等之祖也

建比良鳥命天菩比命をのみ舉げて此神を

を挙て其子孫を出ては此神功ありて御名高き

ばなめさして此御名武夷鳥也天夷鳥也天日照也

を諸書に有て何れも比那比那を此記にみ比良也

あり。那良ハ横通音なり。難辞の阿那を阿良名意
ハ。此神天より降て邊鄙を平し功を美て鄙照
の稱しや。照を登理の例ハ万葉十四日
名照額田毘道男云く神名傳十一を思ひ合は
し。彼功のこやハ次見ゆ。式。因幡國高草郡天穗日
命神社。天日名鳥命神社。出雲國出雲郡阿麻能比奈等
理神社あり。文德實録。河内國天夷鳥命神見ゆ。此神
志紀郡道明寺村。在。道明寺ハ一名土師寺。此
神別出。此神の事傳十三。又姓氏録河内國
雲臣あり。考。出雲國造。天菩比命。此葦原中國を
合せて。○

言向。天降て出雲に留坐。由ハ末。書紀。見え。又書紀。高皇產靈尊勅大己貴神曰云。汝應往
天日隅官者。今當供造云。又當主汝祭祀者。天穗日命
是也。此出雲國造。又大社同紀。天穗日命。是出雲臣土
師連等祖也。土師連ハ出雲臣より出。後。菅原秋
此國造神賀詞。出雲臣等我遠祖天穗比命乎。國体見
爾遣時。爾云。已命見天夷鳥命。爾布都怒志命乎。副天
天降遣天荒布留神等。乎搔平氣國作之大神乎。毛媚鎮
天大八嶋國現事。顯事。令事避支。國作大神。書紀崇
神卷六十年。詔群臣曰。武日照命。一云。武夷鳥。從天將來

神宝蔵于出雲大神宮是欲見焉云々コトキニシモ當是時出雲臣之
遠祖出雲振根主于神宝云々其弟飯入根則被皇命以
神宝舟弟甘美韓日狹子子鷺濡淳而貢上天長七年大極殿
國造の献まゝ五種神宝を
覽給ひしと云後紀に見ゆ國造本紀又出雲國造瑞籬
朝以天穗日命十一世孫宇迦都久怒定賜國造見ゆ
姓氏録又出雲宿禰天穗日命子天夷鳥命之後也まゝ
出雲天穗日命五世孫久志和都命之後也まゝ出雲臣
天穗日命十二世孫鷺濡淳命之後也此外も山城河内
續紀又延曆十年九月近衛將監正六位下出雲臣祖人
言臣等本系出自天穗日命云々於是賜姓宿禰あり

其後朝臣又為しナリもや續後紀七丁八丁ナリなるや其人見
ゆ抑此姓のゆゑ臣の尸シなりしを彼國より上ボりて
朝廷又仕奉りしゆり始まると云々此姓人の始て京
垂仁の御世野見宿禰なり此人天穗日命十四世の
孫なり彼土師連の祖なり元て臣の尸シなり姓ハ朝廷
又親く仕奉は輩なりさて後又宿禰をも朝臣ともな
ふ事後よりはシ云々さて後又宿禰をも朝臣ともな
ふ事なり諸氏又此例多しゆて然京のありゆり住スる
も又國又住スるも皆その本ハ國造ゆり出スる子孫な
は故又此コは其本又就ツキて國造ゆりあげ書紀ゆりハ廣く
渾て臣オミ也奉アゲり諸氏又此例多しナラヒ效て知ラしさて延
曆十七年三月廿九日太政官符又昔者國造ゆり郡領也

別なりしと。慶雲三年なりしと。出雲國造と意字郡大
領を帶^{カケ}志^{カケ}果^{カケ}けるを。又舊例の如く。國造^{カケ}郡領^{カケ}別^{カケ}
任^{カケ}せられしと。見ゆ。さて今世まで國造の残^{カケ}きは。
此國^{カケ}の紀^{カケ}國^{カケ}ののみ。中^{カケ}を此國造名高し。此二國^{カケ}
造^{カケ}ハ。昔^{カケ}なり他^{カケ}と異^{カケ}なりしと。貞觀儀式^{カケ}。此^{カケ}を任^{カケ}
儀^{カケ}を載^{カケ}らしり。さて此出雲國造京^{カケ}と上^{カケ}して。神壽辭^{カケ}
神賀辭^{カケ}を奏事^{カケ}あり。何^{カケ}きの御世^{カケ}なり。始^{カケ}まりしと。物
は續紀七靈龜二年二月と始^{カケ}りて見えて。御世^{カケ}こ
絶^{カケ}はるなりし。延曆十四年二月。緣遷都^{カケ}奏神賀事^{カケ}と
も。類聚國史^{カケ}と見えり。其事^{カケ}又獻物^{カケ}の^{カケ}賜物^{カケ}の品

なり。臨時祭式^{カケ}と見え。彼詞^{カケ}ハ祝詞式^{カケ}と載^{カケ}しり。○牟
邪志國造武藏^{カケ}なり。今^{カケ}ハ邪^{カケ}を清^{カケ}て唱^{カケ}し。濁^{カケ}るは。
此邪^{カケ}又藏^{カケ}字^{カケ}又万葉十四^{カケ}と牟射志野^{カケ}と書^{カケ}る射字^{カケ}の^{カケ}初^{カケ}
身^{カケ}も濁音^{カケ}と用^{カケ}ふ例^{カケ}なり。名義^{カケ}未^{カケ}思^{カケ}得^{カケ}べ。師^{カケ}説^{カケ}ハ相模^{カケ}
牟佐^{カケ}と畧^{カケ}き。上下^{カケ}と分^{カケ}て牟佐^{カケ}上^{カケ}牟佐^{カケ}下^{カケ}云^{カケ}その上^{カケ}
ハ牟佐^{カケ}と畧^{カケ}き。下^{カケ}ハ毛^{カケ}を畧^{カケ}せり。凡^{カケ}て牟佐^{カケ}下^{カケ}地名^{カケ}
國^{カケ}と多く。又東^{カケ}の國^{カケ}ハ上^{カケ}総^{カケ}下^{カケ}野^{カケ}下^{カケ}野^{カケ}の
如^{カケ}く。上下^{カケ}と分^{カケ}例^{カケ}なり。此^{カケ}説^{カケ}ら。野^{カケ}下^{カケ}野^{カケ}の
也^{カケ}。其^{カケ}由^{カケ}ハ中^{カケ}卷^{カケ}倭^{カケ}建^{カケ}命^{カケ}の^{カケ}知^{カケ}ル^{カケ}云^{カケ}。さて國造^{カケ}ハ書^{カケ}紀^{カケ}
と。天^{カケ}穗^{カケ}日^{カケ}命^{カケ}。此^{カケ}出^{カケ}雲^{カケ}臣^{カケ}武藏^{カケ}國造^{カケ}土師^{カケ}連^{カケ}等^{カケ}遠^{カケ}祖^{カケ}也。國造^{カケ}
本^{カケ}紀^{カケ}と。牟邪志國造^{カケ}志賀^{カケ}高^{カケ}穴^{カケ}穗^{カケ}朝^{カケ}御^{カケ}世^{カケ}出^{カケ}雲^{カケ}臣^{カケ}祖^{カケ}名^{カケ}二
井^{カケ}之^{カケ}字^{カケ}迦^{カケ}諸^{カケ}忍^{カケ}之^{カケ}神^{カケ}狹^{カケ}命^{カケ}十^{カケ}世^{カケ}孫^{カケ}兄^{カケ}多^{カケ}毛^{カケ}比^{カケ}命^{カケ}定^{カケ}賜^{カケ}國造^{カケ}

祖名、下、狹、命、ま、て、此、間、に、誤、字、脱、字、な、り、あ、る、を、考、へ、し、て、
姓氏録、に、入、間、宿、祢、天、穗、日、命、の、後、な、り、あ、る、を、考、へ、し、て、
武、蔵、國、入、間、郡、の、人、也、と、も、て、物、部、直、な、り、し、を、入、間、
宿、祢、と、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、
波、比、神、社、の、神、也、と、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、
蔵、國、造、笠、原、直、使、主、て、小、人、見、え、續、紀、廿、八、に、此、國、人、大、
部、直、不、破、麻、呂、て、小、人、武、蔵、宿、祢、と、云、姓、を、賜、は、り、國、造、
也、と、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、を、考、へ、し、し、
蔵、宿、祢、弟、總、為、國、造、也、類、聚、國、史、に、見、ゆ、此、等、ハ、本、に、
別、姓、に、は、い、後、に、分、れ、し、姓、を、尋、ぬ、べ、し、
抄、に、○、上、菟、上、國、造、和、名、抄、に、上、總、國、海、上、
見、ゆ、奈、ハ、之、の、意、な、り、故、に、菟、
な、り、と、読、附、て、菟、上、に、考、へ、し、
万、葉、十、四、上、總、國、哥、に、奈、

都、素、妣、久、字、奈、加、美、我、多、能、云、
造、本、紀、に、上、海、上、國、造、志、賀、高、穴、穗、朝、天、穗、日、命、八、世、孫、
忍、立、化、多、比、命、定、賜、國、造、
造、和、名、抄、に、下、總、國、海、上、
に、海、上、之、其、津、於、指、而、君、之、已、藝、婦、者、
な、り、國、造、本、紀、に、下、海、上、國、造、輕、鳴、豐、明、朝、御、世、上、海、上、
國、造、祖、孫、久、都、伎、直、定、賜、國、造、也、
國、防、人、に、助、丁、海、上、郡、海、上、國、造、他、田、日、奉、直、得、大、理、見、
と、續、紀、卅、八、に、海、上、國、造、他、田、日、奉、直、德、刀、自、三、代、實、錄、
四、十、七、丁、に、下、總、國、海、上、郡、大、領、外、正、六、位、上、海、上、國、

造他田日奉直春岳 今本又海上の上字を脱せり此字古本又あり又他字を池と誤せり
あり此ハ別姓もやこそあふ類をも國也云るハ古
は元て道奥石城國常道仲國 中卷又なり云る如く國見ゆ
の中あふ地の小名をも同く國也云し哉郡也せられ
しハや後のもやなりさて郡也なめて後をも舊云
あれあるもに猶もや依ては國也云しむや吉
野國難波國初瀬國なやのしむひなり 此ニの菟上を延佳本又上菟
毛下菟毛やあは古を志ぬ者ハさか ○伊自牟
ら改められしむも足ぬるや ○伊自牟
國造國造本紀又伊甚國造志賀高穴穗朝御世安房國
造祖伊許保止命孫伊已侶止直定賜國造 阿波國造天穗日命八世

孫弥都侶岐命孫大伴直大瀧定 書紀安閑卷元年四月
賜國造やあり阿波郡安房なり 伊甚國造稚子直等云くの罪ありて為皇后獻伊甚屯
倉贖罪因定伊甚屯倉今分為郡属上総國也見ゆ即和
名抄又上総國夷瀧 伊志郡也 郡也 此なり 常陸國茨城
式又夷針神社をあり此也 ○津嶋縣直縣ハ和名抄又
伊自牟や訓 阿加多郡下縣郡これなり 上下や分き
對馬島上縣 阿加多郡下縣郡これなり はハ後の
縣 元ハ云む 國造本紀又津島縣直檀原朝高魂尊五
世孫建弥已命改為直也 此建弥已ハ建許呂
命のこや 己ハ己呂 其故ハ同紀又師長國
造茨城國造祖建許呂命云々須惠國造茨城國造祖建

許呂命云々馬來田國造云々下引云々其茨城國造
は同紀に輕島豊明朝御世天津彦根命孫筑紫刀祢定
賜國造時代を度る筑紫刀祢ハ
彦根命以茨城國造額田部連等遠祖也常陸國風土記
に茨城國造初祖多祁許呂命仕息長帶比賣天皇之朝
姓氏錄に茨木造天津彦根命之後也まゝ天津彦根命十
二世孫建許呂命命ある也此記に此縣直を天菩比
命の子孫也命を合せて思ふは允て遠祖を云
ふ御兄弟の間ハ互に傳の混るる例氏ウヂに多きれば
なり右の書右の書を合せて思ふは國造本紀に檀原朝
にいひ高魂云々高魂云々は誤り誤りをわづらひぬ又

改爲直改爲直云々疑書紀顯宗卷に對馬下縣直對馬下縣直みゆ○
ばば記書記書なるなり遠江國造師説遠江國造師説に此記に國名を遠江遠江に二字に約約て
書るに後人の爲なり其の後に定まりしに改改なり
此記に必遠淡海必遠淡海に有はるるに有はるるになり云々記
今考はるに此記に凡て國地名國地名或ハ一字三字一字三字も書又
二字に書はる多し其後に定まる字字に異なり此古の
書格書格あり然るに遠江遠江に後文字の如く書る所所に稀
なり淡海淡海に書るに准准りて思ふに信信に後人の改
改しに改は見えしに抑國郡郷名抑國郡郷名の字れしに和銅
六年詔に畿内七道諸國郡郷名好字見え出雲風

土記の如く。神龜三年。郡郷名の文字を多く改然し
て見え。民部式。凡諸國部内郡里等名。并用二字。必
取嘉名。見ゆ。此等皆此記より後の如く。なり。されば
かの和銅六年より。前も。國名あつたか。然るに文
字を擇ひ。又二字。又約ら。り。有し。も。知が。た。る。れ
ば。遠江。な。り。決て。後。人の。為。り。定。然。が。く。も。あ。り
ば。今。の。舊。の。如。く。て。れ。ま。ぬ。さ。れ。ば。古。の。書。格。の。必。師。説
の。如。く。有。し。と。云。ふ。か。い。元。て。地名。の。字。を。擇。む。よ。り。き
得。か。た。記。故。に。近。字。音。を。取。て。牟。邪。志。と。武。藏。須。流。賀。の
駿。河。の。邪。志。と。ガ。ウ。の。音。を。用。ひ。須。流。と。ス。の。音
を。用。ひ。し。類。の。多。し。又。必。二。字。と。約。む。ら。付。て。の
い。よ。く。得。か。た。記。故。に。強。て。字。を。畧。て。上。毛。野。下。毛。野。を。

上野下野。書とらひ。を。い。や。多。し。み。な。准。て。知。れ。し。此
義。を。得。知。ぬ。人。國。郡。名。と。就。て。疑。を。な。し。と。云。ふ。世。と。多。し。
故。今。切。り。て。和。名。抄。と。遠。江。止。保。太。阿。不。三。阿。字。衍
なり。登。保。都。阿。布。美。を。約。む。と。バ。登。保。多。布。美。都。阿。を。約
む。なり。今。人。も。万。葉。十。四。十五。と。等。保。都。安。布。美。同。二十
十六。小。等。保。多。保。美。の。も。あり。さて。此。國。の。古。湖。阿
し。を。以。此。名。を。負。て。近。江。國。の。京。と。近。き。と。對。す。と。遠
く。云。な。り。さて。又。此。遠。淡。海。名。の。と。對。す。と。對。す。其。湖
は。明。應。の。ろ。甚。地。震。て。地。断。て。南。の。海。と。連。き。し。や。な
り。其。断。ち。所。式。と。磐。田。郡。淡。海。國。玉。神。社。濱。名。郡。猪。鼻
湖。神。社。な。り。國。造。本。紀。と。遠。淡。海。國。造。志。賀。高。穴。穗。

後也。ゆも何るは遠祖御兄弟の間傳れ混ちるなり。後
し國造本紀より彦已蘇根命為九河内國造。即九河内
忌寸祖より九河内國造。檀原朝御世。以彦已曾保理命
為九河内國造。何り。○額田部湯坐連書紀より天津彦
根命。此茨城國造額田部連等遠祖也。姓氏録より額田部
湯坐連天津彦根命子明立天御影命之後也。允恭天皇
御世被遣薩摩國平阜人復奏之日。獻御馬一疋。額有町
形廻毛。天皇喜之。賜姓額田部也。奴加ハ即比多比のこ
の形。まゝ額田部。佐田連同神。天津彦根三世孫意富伊我都
命之後也。允恭天皇御世。獻額田馬。天皇勅。此馬額如田

町。仍賜姓額田連。此ハ部字脱く。部字云く。後より
是より額田の義解。此ハ部字脱く。部字云く。後より
云々。同書に額田部湯坐連天津彦根命五世孫乎田
部連之後也。乎ハ決く誤字なり。手ハ誤なり。舊事
紀より天斗麻弥命額田部湯坐連等祖。根命。男天戸間見
命。乃々あり。湯坐の事ハ玉垣朝段。傳。廿四の云々。此
例の安事なり。さて右の如く。額田部連也。も
あれば。此湯坐連ハ其氏人の中より湯坐の事ハ由り付
て。別より賜りし姓なり。後より其湯坐連の方
榮えて廣かりけり。故より此記より其を奉。此。姓の人ハ
孝徳紀孝謙

紀仁明紀をばしよも見えしを。書紀には本を奉じ
だ額田部連の人ハ凡て見えし。倭國山邊郡額田邑和
はなす。書紀頭宗卷二倭國山邊郡額田邑和
名抄二平群郡額田奴加多。今此郡額田部云村あり是。河内國河内
郡額田をばし。此は姓氏録の説の如くは。此姓
より出たり地名。猶尋ぬ。又人。又名。又地名。
より出たり。姓人。又神名式二伊勢國桑名郡額田神
社あり。同郡多度神ハこの天津日子根命をば。此社
も此姓より出たり。又類聚國史二額田國造云
姓の人も有り。此ハ同姓。異姓。猶考し。○木國造
國名義字の如し。其由下二見ゆ。傳十の二即紀伊なり。
十八九葉

さし。此神の此國造祖と。他の古書にも
見え。國造本紀には。紀伊國造檀原朝御世神皇產靈
命五世孫天道根命定賜國造。姓録にも。紀直
神魂命五世孫天道根命之後也。ま。紀直神魂命子御
食持命之後也。なり。故思ふ。此ハ茨木の茨字を
後二脱し。此神茨城國造祖と。右の津
右の津嶋縣直の下ふ引る諸書の如し。其上書紀二此
神の子孫と。二姓のみを奉じ。所よ。此茨城ハ
其一。況て此記には。數多の氏を連綿奉じ
中二漏し。所思。故今宇婆良紀。訓。和名抄二
ハ牟婆良

総國望多未字郡也ありて万葉十四九上総國歌も宇
麻具多能祢呂也未字地なり未字後書紀
廿八も大伴連馬來田也未字のふ人名を廿九卷もは望多
也作也未字望多也書るを繼体天皇の御
子も馬來田皇女也申はも有書紀も見ゆ國造本紀も
馬來田國造志賀高穴穗朝御世茨城國造祖建許呂命
見深河意弥命定賜國造○道尻岐閉國造國造本紀も
道口岐閉國造輕嶋豐明朝御世建許呂命見宇佐比乃
祢定賜國造阿尺國造の上も舉りま岐閉國造祖
兄多毛比命此命年邪志國也此地名陸奥も在

げも聞ゆれ也物も見えぬ又道尻也云はき國を
考ふもも元て見えぬ又國造本紀もは道口也ありし
疑はし万葉十四四遠江國哥も伎倍也云地を賦也
毛彼國の道尻也云はき由なし道口道尻のこ也の黒
田朝段傳廿一のも出○周芳國造書紀卷もみも師ハ
須波也訓も信ニコトも万葉な也も芳ハ波の假字も用
ひ又須波字也云むゆりの古言の体なりされ也此國
名を正し然云る例を未見山万葉四も周防在磐國
那流も須波字那和名抄も周防須波也故も今
流も定也和名抄も周防也故も今
を然訓也名義いませ考得ば國造本紀も周防國造輕

嶋、豊明朝、茨城國造、同祖。加米乃意美定賜國造也。あり。

○倭淹知造、淹知の訓ハ阿牟知也。今山邊郡ニ奄治

阿武義、隱岐國周吉郡奄可安無加。今山邊郡ニ奄治

也。云村あり。此なる。今あうぢや唱ふは伊勢の奄

郡也。阿りて哥ニ扇ニよせ。又靈異記ニ大倭國十市郡

菴知部也。云あり。續紀廿五又卅六ニ豊野真人奄智也

云人名も見ゆ。さて姓氏録左京小奄智造額田部湯坐

連同祖也。大和國神別ニ奄知造天津彦根命十四世

孫建凝命之後也。あり。類聚國史弘仁十年二月叙位

ニ奄智造吉備麻呂也。云人見ゆ。○高市縣主和名抄ニ

大和國高市多介郡これなり。此名の事ハ朝倉官段大

右の御哥多介多氣知也。あり。下トコ傳四十二の小委云。云。云。

姓氏録ニ高市連額田部同祖天津彦根命三世孫彦伊

賀都命之後也。あり。高市縣主天津彦根命十二世孫建

許呂命之後也。あり。見ゆ。書紀天武卷ニ高市郡大領高市

縣主許梅也。云人あり。同卷ニ十二年冬十月高市縣主

賜姓曰連。○蒲生稻寸和名抄ニ近江國蒲生加郡ニ

きかめ名義ハいゆ上代ニ蒲の多く生イヒじりし地なり

しよや。蓬生オモヒ浅茅生カサ麻生アサ。此姓のこゆハ他書ニ未見

録ニ菅田首天久斯麻比止都命之後也。あり。姓氏

麻比止都命ハ天津彦根命の○三枝部造姓氏録ハ三
子ノ同書ニ見え上ニ引ル。○三枝部連額田部湯坐同祖顯宗天皇御世喚集諸氏人等
賜饗醢于時三莖之草生於宮庭採以奉獻仍負姓三枝
部造ミヤコトミカネヲ三枝部連額田部湯坐連同祖天津彦根命十
四世孫建己呂命之後也顯宗天皇御世諸氏賜饗醢于
時宮庭有三莖草獻之因賜姓三枝部造ミヤコトミカネヲあり書紀顯
宗卷ニ三年四月丙辰朔戊辰置福草部フキクサノベ也ミヤコトミカネヲ以時
事ミヤコトミカネヲ乃ミヤコトミカネヲ始ミヤコトミカネヲ天武紀ニ十二年九月福草部造賜姓曰連
也ミヤコトミカネヲあり三枝のミヤコトミカネヲ白檮原宮段シラヒノハラノミヤノサタ傳二十の又近飛鳥
宮段ミヤノサタ傳四十三のミヤノサタニ云○右件十九氏の加婆祢カハハメの事國造

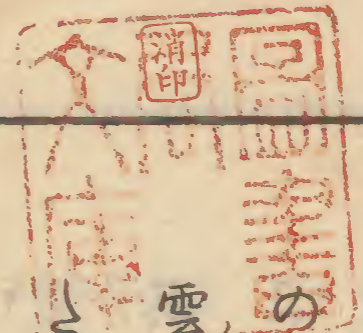
ハ何れも久遠能美夜都古訓コノミヤコトミカネヲ造ミヤコトミカネヲ其由ハミヤコトミカネヲ上代
ニ諸仕奉人等ミヤコトミカネヲを惣奉ミヤコトミカネヲるミヤコトミカネヲハ臣連伴造國造ミヤコトミカネヲ並云ミヤコトミカネヲ。
書紀卷ミヤコトミカネヲノ數又敏達卷ミヤコトミカネヲニ臣連二造ミヤコトミカネヲ也ミヤコトミカネヲ有ミヤコトミカネヲて二造者
國造伴造也ミヤコトミカネヲ註ミヤコトミカネヲせりミヤコトミカネヲ。その國造ハ諸國ミヤコトミカネヲよミヤコトミカネヲて其國
の上ミヤコトミカネヲ造ミヤコトミカネヲして各其國を治ミヤコトミカネヲる人ミヤコトミカネヲを云ミヤコトミカネヲ尸ミヤコトミカネヲなり造ミヤコトミカネヲハ即ミヤコトミカネヲかの
伴造ミヤコトミカネヲ也云ミヤコトミカネヲる者ミヤコトミカネヲよミヤコトミカネヲして伴造ミヤコトミカネヲハ部ミヤコトミカネヲを云ミヤコトミカネヲ三枝部ミヤコトミカネヲなり部の
なり倍ミヤコトミカネヲハ即牟礼ミヤコトミカネヲを約ミヤコトミカネヲする米ミヤコトミカネヲ又通ミヤコトミカネヲはミヤコトミカネヲる言ミヤコトミカネヲなり。
部ミヤコトミカネヲノ書ミヤコトミカネヲテカムミヤコトミカネヲダミヤコトミカネヲチミヤコトミカネヲメ故造ミヤコトミカネヲの尸ミヤコトミカネヲハ多ミヤコトミカネヲくハ某部ミヤコトミカネヲ也云ミヤコトミカネヲ姓
多ミヤコトミカネヲし天武紀十二年九ミヤコトミカネヲ月ミヤコトミカネヲの所ミヤコトミカネヲを見ミヤコトミカネヲ造ミヤコトミカネヲハ部ミヤコトミカネヲ也云ミヤコトミカネヲぬも其意ミヤコトミカネヲなる姓ミヤコトミカネヲなり。
かミヤコトミカネヲれハ造ミヤコトミカネヲハ諸部ミヤコトミカネヲよミヤコトミカネヲて上ミヤコトミカネヲ造ミヤコトミカネヲして各其部ミヤコトミカネヲを掌ミヤコトミカネヲる人ミヤコトミカネヲを

又國造伴造並佐云又これに二造ありはるるを一を
バミヤツコ一をバドツコ也訓の委ははき由なき
をされば天皇の御臣也して書紀推古卷に國司國造
其國を治る人を國御臣也云各其部を掌る人を
伴御臣也云なりはて造字を書所由ハ未思得ハ漢
國秦官ハ大良造大上造也云あり又北史ハ新羅國官
十七等ハ中の第十七を造位也云也いなり此等ハ由
有て書始しるか猶考ふはしはて國造ハ上代ハ職
ありて即加婆祿なりしと也後ハ加婆祿ハ別ハ有
て其氏の中ハ國造あり那良のころハ至るハ其氏人
が常なり然るハ某國造也云姓を賜ひて也ハ統紀
卅三の二葉なり見えしなり又大室二年ハ諸國國

造の氏を定めて國造記に載らしむる也同書又見
え又陸奥國ハ大國造國造也並任せしむる也
同廿八卷さて國ハ宰を置きて後古國造ハ世ハ傳
又漢國の古の封建の制也云也似しなり然るハ孝
徳天皇の御世より彼國の郡縣乃制也云をまほびて
京より國司をかへるハ遣て國を治れし賜也
之ハ為しり其より前も宰也云者ハ有也也
毎國ハ必定て置也國造ハ國司の下ハ立て多く
あり彼御代よりを也
ハ郡領なり任しりはて漸く衰ゆきて後世ハ
遂ハ國ハ國造絶て今世まで其名の残るハ出雲
さてハ紀國なりみあり直ハ書紀ハ阿多比延也訓
は所ある皇極卷ハ長也和名抄和泉國和泉郡の郷名
ハ山直也末也倍也あり也合せて阿多閉也訓也
阿多

此延の比延を切きて、阿字云なり。山直ハ、此名義未考、
の未_レ阿韻ある故_ニ阿を畧きて多附なり。統紀廿八_ニ庚
得_レ延ハ兄なる_レ彦直字ハ借字なり。統紀廿八_ニ庚
午年籍_ニ直姓_ニ費字を書き
ア_レ見ゆ。姓氏録_ニ直者謂_レ君也_レハ_レ宜汝為
君治_レ之_レある詔_ニ就_テ註せ_ルなり。此尸も允_テ國_ノ
の處_ニは_レ何_レの姓_ニは_レ附_トし_ルバ其處の君_トする意_ニめてハ
何_レなり。連ハ前傳六の六見ゆ。大氏諸の姓の中_ニ
臣_ハ連_ハハ京の何_レなり_ハ住居_テ殊_ニ親_ク朝廷_ニ仕
奉_ル氏_トハ_レ戸_{ナリ}。書紀雄畧卷遺詔_ニ臣連伴造_ハ毎日
臣連伴造ハ京近_ニ造_ハ其部の品類_ニよめて京の
住居故_{ナリ}。造_ハ造_ハ其部の品類_ニよめて京の
あ_レり_ハ在_ル也_レ國_トは_レ在_ル也_レ有_レ彦_シ又國造君直縣主稻

寸_ハ寸を置_キや_ハ皆國_トは_レ在_ルて其處_ニを治_ヒる氏
寸_ハ書_キ也_レ。臣連國造伴造_ハ以_テ彦云_ハなり。君直縣主
人の尸_{ナリ}。稻置の_ハあ_レり_ハ國造_ハは_レく_レる_レ彦
志_ハ其中_ニ小尊_ハ甲_ハ何_レなり_ハ見_テて_ハ副雞國造の姓_ニを_レ敗_テ稻
置_ハあ_レり_ハこ_レの_レ書紀允_ニ恭_ニ卷_ニ見_ユ。縣主ハ即
其縣_トは_レ主_{ナリ}。縣の_レ中_ニ卷志賀高穴穗朝段
又出_ル。傳二十九の稻寸ハ多_クハ稻置_ハ書_キ也。置ハ於_テ使
て取_リ。日置玉_ハ何_レも借_ル字_{ナリ}。名義い_ハよ_ク思
得_レ也_レ。使_ハ君_{ナリ}。書紀成務卷五年國郡_ニ立_テ造長
縣邑置_キ稻置_ハ孝_ニ德_ニ卷_ニ國造伴造縣稻置_ハ也_レ也
也_レ。然_レ國_トは_レ在_ルて其趣_ハ相似_ト中_ニも國造縣主



君直稻寸なゆ〜色シキくよ分ワケせし〜ユヱ其所由し高下タカシタ

も今こゆ〜委曲ツバシの辨ワキりがし〜続紀又天平宝字三年冬十月辛丑

天下諸姓著君字者換カ以ス公字ヲある。又右の外ミもな

此コノゆり〜君姓ミな公字ヲをわけり。又ウチ氏姓ノの惣スベテて

や色シキくの尸カネあり其出イ〜處トコロ云イハはし又ウチ氏姓ノの惣スベテて

のこゆハ下ツ卷遠飛鳥朝段ニ傳三十八のノ云イハはし〇コト此出キ

雲國造より三枝部造等之祖也云まて細字ハ書キ

〜ゆり註の例ハ非レ本文なり記中ニ凡ソて如カ此子ノ

孫の氏ヲを舉ト〜所ハみカ然カあり。



